

ゼミ卒業論文 2015 年度社会構築論系  
地域・都市論ゼミ ゼミ論文

大都市における都市公園の空間的価値

— 都市計画により作られた初の近代的洋風公園、日比谷公園の事例から —

主査 浦野正樹教授

早稲田大学 文化構想学部  
社会構築論系 4 年

浦野ゼミナール所属 1T120188-1 大石 慎太郎



## 目次

---

序章	本論文を読む前に	pp4
0-1	本論文の概要・目的	pp4
0-2	本論文執筆の動機	pp4
1章	都市公園の意義	pp6
1-1	都市公園の定義	pp6
1-2	都市公園の機能	pp8
1-3	都市公園の歴史	pp11
1-3-1	江戸期の大名庭園	pp11
1-3-2	明治期の公園緑地計画	pp12
2章	日比谷公園とは	pp15
2-1	日比谷公園の歴史	pp15
2-2	日比谷公園の構成	pp20
2-3	政治のシンボルとしての日比谷公園	pp25
3章	日比谷公園と人々	pp28
3-1	日比谷焼き打ち事件	pp28
3-2	日比谷公園という居場所	pp29
3-3	日比谷公園内外の変遷から見る東京	pp31
4章	都市公園運営の攻防	pp34
4-1	都市公園の課題	pp34
4-2	海外との比較	pp37
4-3	観光のススメ	pp38
終章	論文のまとめ	pp42
5-1	結論・本論の意義	pp42
5-2	謝辞	pp43
5-3	参考文献リスト	pp45

## 序章 本論文を読む前に

### 0-1 本論文の概要・目的

本論では、多くの自然を失いながらも、残され活用されてきた都会の緑、特に都市公園に焦点を当て、都市が近代化されていく中でも存在感を放つその存在について考察をしていきたいと思う。なお、本論では都市計画により作られた初の近代的洋風公園、日比谷公園を研究対象地とし、日比谷公園の持つ政治的な性格が歴史的な変遷の中でいかに醸成されてきたのかを探りながら、都市公園の空間的な価値の可能性に言及したいと思う。そのために、まず都市における都市公園の歴史や機能を調査し、その意義について考察する。次に、政治的機能を果たしてきた日比谷公園の歴史的、空間的変遷に迫りながら大衆がなぜ集まるのか、人々と公園の関係性に言及したい。また海外と日本の公園の一人当たりの面積比較や各種データ等を通じて、現在の都市公園の課題に迫りたい。大都市の中にある都市公園は何故存在するのか、その機能は何か—日本の都市公園の草分けであり、数々のドラマを持つ日比谷公園の事例を元に、都市公園のこれまでと今後、さらにはその空間的価値の展望を考察したい。

### 0-2 本論文執筆の動機

本論文執筆現在（2015年）から5年後の2020年には、1964年以来の東京オリンピックが開催される。遠くない将来にやってくるオリンピックの前に、前回の東京大会が都市にもたらしたものは何だったのだろうか振り返りたい。当時の日本にとってオリンピックはアジアで初めてのオリンピック開催というスポーツ界での大きな意義もあったが、戦後の復興の大きなターニングポイント、経済発展経済成長のためのインフラ整備による新しい日本の建設のスタートでもあった（『原宿表参道 2013 水と緑が協生するまちづくり』初版2013年12月20日 著者：商店街振興組合原宿表参道櫛会）。その後日本は高度経済成長を迎え都市の近代化も進み、現在の日本を形成する上で非常に重要な意義を持つ出来事となったのである。しかし、急速な都市の近代化に伴い少なからず犠牲を払ったことも事実である。五輪は街のあり方も変え、川の街から道路の街へ、強引に改造してきたのである。五輪前、東京都心部には数多くの川が流れていた。京橋川、桜川、築地川、紅葉川、三十間堀川…。これらはすべて首都高や幹線道路の用地となり、日本橋川のように川の上を高架道路が覆ったケースもあった（日本経済新聞 電子版 2013/9/20 [http://www.nikkei.com/news/print-article/?R\\_FLG=0&bf=0&ng=DGXNASFK18039\\_Z10C13A9000000&uah=DF120120126021](http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXNASFK18039_Z10C13A9000000&uah=DF120120126021)）。日本経済新聞には、次のような記述もされている。

「水運が廃れ、鉄道や車など陸運へと変わっていく中で、必然的に消えていった」（中央区立京橋図書館地域資料室）側面は確かにあります。しかし渋谷川や宇田川のようにもともとあった川も五輪を機に暗渠（あんきょ）となっていきます。童謡「春の小川」のモデル

ともいわれる川です。関東大震災、終戦後に続く3回目の大規模な都市改造によって、「水の都・東京」は完全に姿を消したのです。

当時のオリンピック開催が持つ、新しい日本の建設のスタートという意義を考えた時、「水の都・東京」の消失は避けることのできない必然性を持っていたようにも考えられる。1959年（昭和34年）にオリンピック開催が正式決定される直前、東京では都知事選挙が行われている。そこで当選したのはIOC委員の経験もある東龍太郎（あずまりゅうたろう）。彼はオリンピックについて、次のように語っている。「もとより、東京の改造は、2年や3年でやりとげられる程なまやさしくはない。しかし、その突破口をいま開かねばならないのなら、劇的なオリンピックの開催をきっかけに、劇的な東京の再生の第一歩を進めたいと私は思うのである（『オリンピック』 TOKYO 1964 著者:東龍太郎 わせだ書房 1962年初版第1刷）。」オリンピックという一大イベントの波に乗り、一気に国を盛り上げる、そんな決意の表れだろう。結果として知事選の後、5年間という短期間で、東京は大きく変わることになる。国家予算が約3兆3000億円という時代に、大会経費として投じられたのは約1兆800億円で、このうち、大会の直接経費は300億円弱だけ。残りの約1兆円は東海道新幹線建設（3800億円）、地下鉄整備（1900億円）、道路整備（1750億円）等、都市の基盤を整備するために使われており、現在の東京のインフラの多くはこの時期に基礎が作られたと言っても過言ではない（TokyoRent.jp HP <http://tokyorent.jp/column/57/>）。かくして東京は、オリンピックを機に急速に都市の近代化を果たし、同時に多くの自然（水の都としての東京）を失ってきたのである。

さて東京は、2020年の大会成功に向けて動き出している。オリンピック開催地を決定付けたかのように印象深い、「おもてなし」—そんなフレーズは記憶に新しいが、「都市」における東京の特徴や魅力とは何なのであろうか。渋谷や新宿に代表される、先進的なビルが立ち並びかつ様々なアクターが集積する独特な雑多性にこそ、世界に注目される東京という大都市の特徴であり魅力であるといえるだろう。しかし私はそれでもなお、いや、それだからこそ多くの自然を失いながらも江戸時代から脈々と受け継がれる東京の緑に、東京のコンクリートジャングルに負けず劣らずの魅惑を感じざるにはいられないのである。私は幼き時より東京に住んでいるが、近所には多くの公園があり自然を体感出来る場所はすぐそこにあって当然の存在であった。今考えてみれば実家周辺は住宅地であるし、都心部に位置しているわけではないので当然といえば当然なのだが、大都市の都心部に緑が残されていることに素直に不思議な気持ち、独特の雰囲気を感じるのは私だけではないはずだ。本論文を通じて読者の皆様が、今なお受け継がれる東京の自然、都市公園の存在に対する意識を高め、都市の近代化と共に歩んできた変遷のダイナミズムを感じて頂けたら幸いである。

# 1 章 都市公園の意義

## 1 - 1 都市公園の定義

本論文において広義の研究対象となる都市公園とは、誰によって計画されどのような定義づけがされているのだろうか。朝日新聞には、次のような記述がされている。

都市公園（2015年04月14日 夕刊）

都市計画法<sup>(1)</sup>に基づく公園または緑地で、国、自治体が設置する。都市公園法<sup>(2)</sup>第2条では、園内に設けることができる施設を、休憩場、売店、便所、管理事務所、運動場、植物園・動物園など具体的に示している。第16条は「みだりに都市公園の区域の全部又（または）一部について都市公園を廃止してはならない」と定める。

都市公園は都市計画法や都市公園法により定義づけが行われ設置されていることがわかるが、そもそも都市公園と普通の公園自体にはどのような違いがあるのだろうか。もともと公園が設置されるようになったのは、明治6年（1873）年1月15日付太政官布達第16号に基づいたものだった（1-2-2 江戸から東京に継承された公園緑地計画（2）参照）。その後都市計画法や都市公園法が制定され、現在では次のような分類に分けられている。

【公園の分類 図1 (<http://www.koen.pref.ibaraki.jp/pdf/04.pdf>)】

一般に『公園』と呼ばれるものは、『営造物公園』と『地域制公園』とに大別される。営造物公園は都市公園法に基づく都市公園に代表され、国又は地方公共団体が一定区域内の土地の権原を取得し、目的に応じた公園の形態を創り出し一般に公開する営造物である。地域制公園は自然公園法に基づく自然公園に代表され、国又は地方公共団体が一定区域内の土地の権原に関係なく、その区域を公園として指定し土地利用の制限・一定行為の禁止又は制限等によって自然景観を保全することを主な目的とする。

---

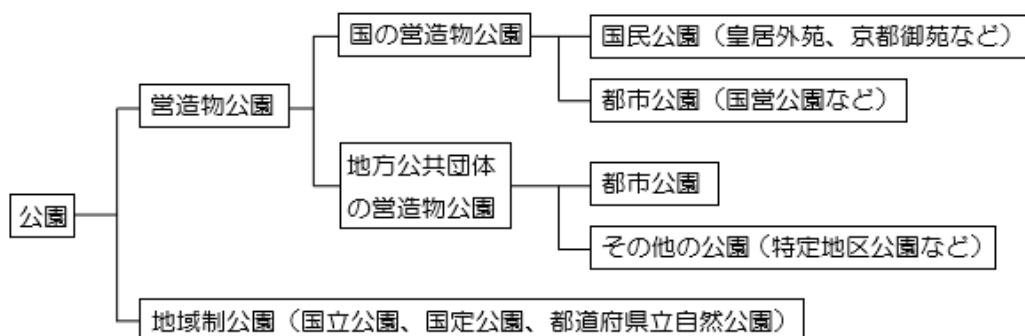
### 【注】

<sup>(1)</sup>都市計画法とは、都市計画の実現をはかるため、いずれの国においても、都市計画法およびこれに関連する諸法規を設けている。このように法律・制度に基づいて実現をはかる都市計画を法定都市計画という。都市計画法は国によって、その体系が異なり、全国適用の統一法をもつもの、州の権限とするもの、市町村の条例により行うものなどに分かれる。日本では1919年にはじめて都市計画法と市街地建築物法が公布された。東京はじめ六大都市はこれによって都市計画区域、用途地域、防火地区などを指定し、幹線街路網の整備、土地区画整理事業などを実施し、その他の中小都市もこれにならって都市計画を進めることとなった（世界大百科事典 第2版）。

<sup>(2)</sup>都市公園法とは、都市公園の設置及び管理に関する基準等を定めて、都市公園の健全な発達を図り、公共の福祉の増進に資することを目的として制定された。この法律には、都市公園の定義や、管理に係る事項等について定められている。都市公園法制定、昭和31年4月20日（法律第79号）都市公園の整備水準、配置標準、管理基準等が定められた（国土

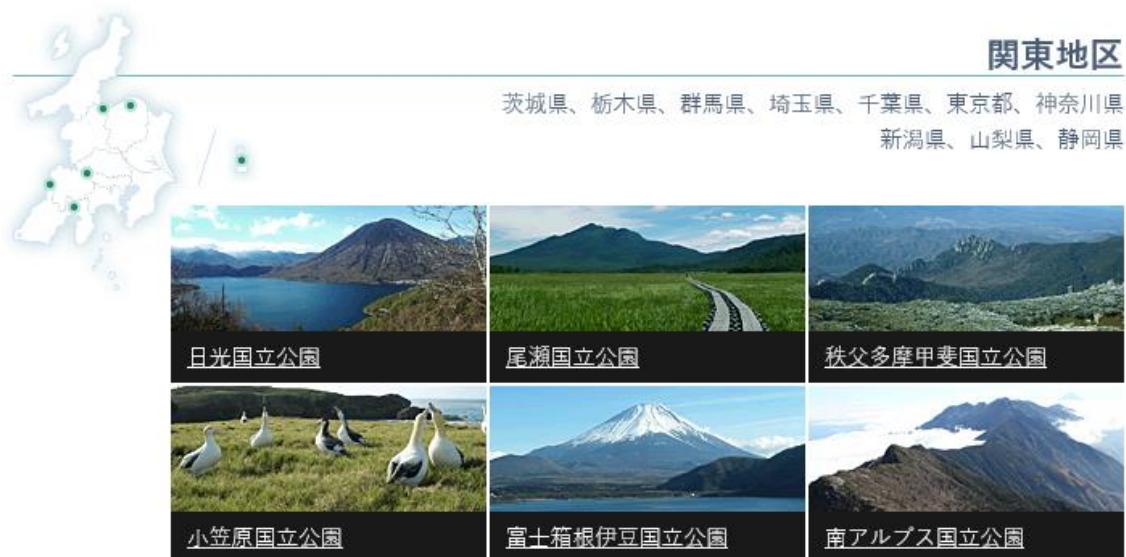
交通省 HP <http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/houritsu/kouen/index.html> )。

【図1 公園の分類 (<http://www.koen.pref.ibaraki.jp/pdf/04.pdf>)】



公園は、「目的に応じた公園の形態を創り出し一般に公開する」役割を期待されている造営物公園（都市公園）と、「自然景観を保全することを主な目的とする」地域制公園（国立公園【写真1】）の2種に大別されおり、管理者や訪れる人々の目的や公園との関わり方もまた同様に異なるだろう。この前提の上で、繰り返しになるが本論文では都市が近代化されていく中でも存在感を放つ緑の存在、つまり都市公園に焦点を当てて考察を進めていきたい。「目的に応じた公園の形態を創り出し一般に公開する」という都市公園の持つ役割の無限の可能性にこそ、その社会的意義があるのではないだろうか。

【写真1 関東地区の国立公園一覧 ([http://www.env.go.jp/park/index.html#area\\_kanto](http://www.env.go.jp/park/index.html#area_kanto))】  
 (本論文ではメインテーマの対象外とする地域制公園 (国立公園)。)



## 1-2 都市公園の機能

前章 1-1 都市公園の定義 では、公園の分類分けを行い都市公園の社会的意義に言及した。本章では、都市の中において具体的に都市公園はいかなる役割を果たしているのか明かにしたい。その前に、都市公園の種類の類型分けについて確認する。表 1-1（都市公園の種類とそれぞれの定義）を参照して欲しい。国土交通省によると、都市公園の種類は5種類に類型分けされ、それは住区基幹公園・都市基幹公園・大規模公園・国営公園・緩衝緑地であるという。

表 1-1 都市公園の種類とそれぞれの定義

([http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p\\_toshi/syurui/index.html](http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p_toshi/syurui/index.html) 国土交通省 HP)

### <住区基幹公園>

街区公園：もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 250m の範囲内で1箇所当たり面積 0.25ha を標準として配置する。

近隣公園：主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区当たり1箇所を誘致距離 500m の範囲内で1箇所当たり面積 2ha を標準として配置する。

地区公園：主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 1km の範囲内で1箇所当たり面積 4ha を標準として配置する。都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園（カントリーパーク）は、面積 4ha 以上を標準とする。

### <都市基幹公園>

総合公園：都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積 10～50ha を標準として配置する。

運動公園：都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積 15～75ha を標準として配置する。

### <大規模公園>

広域公園：主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、地方生活圏等広域的なブロック単位ごとに1箇所当たり面積 50ha 以上を標準として配置する。

レクリエーション都市：大都市その他の都市圏域から発生する多様かつ選択性に富んだ広域レクリエーション需要を充足することを目的とし、総合的な都市計画に基づき、自然環境の良好な地域を主体に、大規模な公園を核として各種のレクリエーション施設が配置される一団の地域であり、大都市圏その他の都市圏域から容易に到達可能な場所に、全体規模 1000ha を標準として配置する。



<国営公園>

主として一の都府県の区域を超えるような広域的な利用に供することを目的として国が設置する大規模な公園にあつては、1箇所あたり面積おおむね300ha以上を標準として配置する。国家的な記念事業等として設置するものにあつては、その設置目的にふさわしい内容を有するように配置する。

<緩衝緑地等>

特殊公園：風致公園、動植物公園、歴史公園、墓園等特殊な公園で、その目的に則し配置する。

緩衝緑地：大気汚染、騒音、振動、悪臭等の公害防止、緩和若しくはコンビナート地帯等の災害の防止を図ることを目的とする緑地で、公害、災害発生源地域と住居地域、商業地域等とを分離遮断することが必要な位置について公害、災害の状況に応じ配置する。

都市緑地：主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1箇所あたり面積0.1ha以上を標準として配置する。但し、既成市街地等において良好な樹林地等がある場合あるいは植樹により都市に緑を増加又は回復させ都市環境の改善を図るために緑地を設ける場合にあつてはその規模を0.05ha以上とする。(都市計画決定を行わずに借地により整備し都市公園として配置するものを含む)

緑道：災害時における避難路の確保、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、近隣住区又は近隣住区相互を連絡するように設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地で幅員10~20mを標準として、公園、学校、ショッピングセンター、駅前広場等を相互に結ぶよう配置する。

上記のような類型分けがされるのには、これまで都市公園が求められてきた機能の積み重ねそのものが背景としてあるのではないかと考える。公園の機能は、時代時代で光の当てられ方も異なっていた。都会の空気が汚れていて、肺結核が不治の病と恐れられていたときは、植物の光合成作用が注目され、新鮮な空気が放出される大気浄化機能を強調し、公園を「都市の肺臓」と呼んだ。高度成長期に自動車事故が多発し、子どもが多数犠牲になるようになると、遊び場やレクリエーション機能が叫ばれた。公害に対しては都市緑化が、人工巨大都市に対しては環境保全機能が、ヒートアイランド現象に対しては気温低減機能がそれぞれ期待されてきた(日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp85 - pp86 進士五十八著 2011年5月20日 鹿島出版社)。都心に存在する都市公園の役割はその種類によって期待される機能は異なる部分もあるだろうが、国土交通省は「良好な都市環境」・「都市の安全性を向上させ、地震などの災害から市民を守る」・「市民の活動の場、憩いの場を形成」・「豊かな地域づくり、地域の活性化に不可欠」(表1-2)としている。

都市公園が過去に実際に機能を果たしたケースを振り返りたい。1923年9月1日に発生した関東大震災は、『大正震災志』(内務省社会曾局編 1926年 関東大震災の記述)にお

いて次のように記述されている。「午前 11 時 58 分 44 秒、関東地方に大激震（マグニチュード 7.9）。火災随所に発生、津波襲来。東京では、通信、交通機関、ガス、水道、電燈すべて停止。流言とび人心動揺。死者 9 万 1244 人、全壊焼失 46 万 4909 戸・・・」このとき、都内の公園は非常に大きな役割を果たしていた。「当時、警視庁が調査した震火災直後の九月一、二両日における避難者数一覧によると、日比谷公園が約一五万人、芝公園で二〇万人、宮城皇居外苑では三〇万人、上野公園五〇万人などとあり、公園広場に逃れた避難人口の合計は、一五七万人となった。これは東京市民（二一七万人）の約七割にあたる。」日比谷公園においては、「震災直後の日比谷公園には 50,000 人が避難し、9 月 6 日からはバラックが建てられ、100 棟（2400 坪）に 617 世帯 3008 人を収容した」（小坂祐弘著『松本樓の歩み』日比谷松本樓、1973 年）という記述や、「日比谷公園は一夜あけたら一躍一五万人の小都市となり、有楽町一帯には四〇〇あまりの露天街が出現した」（東京朝日新聞）という記事もある。文部科学省の公式見解では、「南関東で M7 クラスの地震が発生する確率は 30 年以内に 70%」というのだから、大震災があったという昔話にしてしまうわけにはいかないだろう。大都市における都市公園には、今後も一層震災、災害避難としての機能を期待され、また同時に、その役割を果たすべく準備を進める必要があるだろう。

表 1 - 2 都市公園の役割

良好な都市環境の提供	都市の安全性を向上させ、地震などの災害から市民を守る	市民の活動の場、憩いの場を形成	豊かな地域づくり、地域の活性化に不可欠
地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全による良好な都市環境の提供は、我が国の国家的な政策課題です。この課題の解決には、都市公園等の整備、緑地の保全、緑化の推進による都市における緑とオープンスペースのネットワークの確保が必要です。	震災・大火の危険性が高い密集市街地は、東京都・大阪府などを中心に全国で約 25,000ha 存在しています。このような地区では、震災時の避難地、避難路、延焼防止、復旧・復興の拠点となる防災公園の整備が急務となっています。	緑とオープンスペースは、子供からお年寄りまでの幅広い年齢層の自然とのふれあい、レクリエーション活動、健康運動、文化活動等多様な活動の拠点となっています。また、これからは公園の整備・管理や緑化活動へ、より一層市民が参加することが期待されます。	中心市街地のにぎわいの場となる公園・広場の整備や、地域の歴史的・自然的資源を活用した観光振興の拠点の形成などの、地域間の交流・連携の拠点となる緑とオープンスペースの確保は、快適で個性豊かな地域づくりに必要不可欠です。

([http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p\\_toshi/yakuwari/index.html](http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p_toshi/yakuwari/index.html) 国土交通省 HP)

## 1-3 都市公園の歴史

### 1-3-1 江戸期の大名庭園

都市公園を定義づける都市計画法や都市公園法が定められる以前、さらに公園そのものが設置される明治 6 年以前から、東京には多くの庭園が存在していた。現在の東京の公園のルーツともいべき緑の存在の誕生は、江戸時代に遡る。東京の緑の基礎は江戸時代の緑からきており、主なものは次の 4 つであったといわれる（「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」 初めに～pp1 平成 27 年 9 月 9 日発行 公園文化財歴史と管理の研究者 高橋裕一氏著）。

① 「大名庭園」の緑

② 「社寺境内地」の緑

③ 庶民の憩いの江戸市中や近郊の行楽地の緑

④ 大名や庶民の間で盛んになった「ガーデニング」の緑

では、何故上記のような造られる緑が存在するようになったのか。「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」によると、その秘密は意外にも徳川幕府が関係していたようだ。

徳川幕府の政策により、全国の各藩は幕府から土地を拝領して、江戸市中に江戸屋敷を設けた。寛永 12 (1635) 年、三代将軍家光のとき、「参勤交代制度」が確立され、以後、各大名は江戸と国元を一年交代での行き来を余儀なくされるようになった。その一方、大名の妻子は江戸に常住となり、言わば“人質”の状況となった。江戸屋敷は各藩ごとに、その格により上・(中)・下が分散して設けられ、下屋敷はレクリエーションの場として、多くは故郷の癒しを感じられるよう、緑と水で構成された回遊式の庭園が作られた。海辺に面した庭では海水を取り入れた。今日、当時のこれらの庭園の一部が江戸の大名庭園群として残り、都立公園または区立公園として一般公開されているほか、施設に取り込まれて管理されるなどしている。しかし、明治期以降消滅したものも多い。江戸の大名庭園群は東京の緑の重要な要素を構成している。

<江戸期の大名庭園を継承する都立の庭園などの例>

浜離宮恩賜庭園・小石川後樂園・六義園・清澄庭園・旧芝離宮恩賜庭園・旧岩崎邸庭園・戸山公園・旧安田庭園・新江戸川公園・三四郎池・小石川植物園・イタリア大使館の庭他

現在でも多くの人々が訪れる小石川後樂園や六義園は、遡ること約 400 年前の「参勤交代」がきっかけで作られた庭園を基礎として、今に受け継がれていたのだ。参勤交代という制度自体の是非を問うことは本論文では行わないが、参勤交代によって今の東京の緑や公園があると言っても過言ではないし、他にも大名の移動により交通網が発達していった側面もあるので、その後の街の変容に大きな影響を与えた制度だったと言えるのではないだろうか。

★六義園 (<http://teien.tokyo-park.or.jp/contents/outline031.html>)

六義園は造園当時から小石川後樂園とともに江戸の二大庭園に数えられていた。元禄8年(1695年)、五代将軍・徳川綱吉より下屋敷として与えられた駒込の地に、柳沢吉保自ら設計、指揮し、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、7年の歳月をかけて「回遊式築山泉水庭園」を造り上げた。

六義園は吉保の文学的造詣の深さを反映した繊細で温和な日本庭園である。

庭園の名称は、中国の古い漢詩集である「毛詩」の「詩の六義」、すなわち風・賦・比・興・雅・頌という分類法を、紀貫之が転用した和歌の「六体」に由来する。

庭園は中の島を有する大泉水を樹林が取り囲み、紀州（現在の和歌山県）和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝の景観が八十八境として映し出されている。

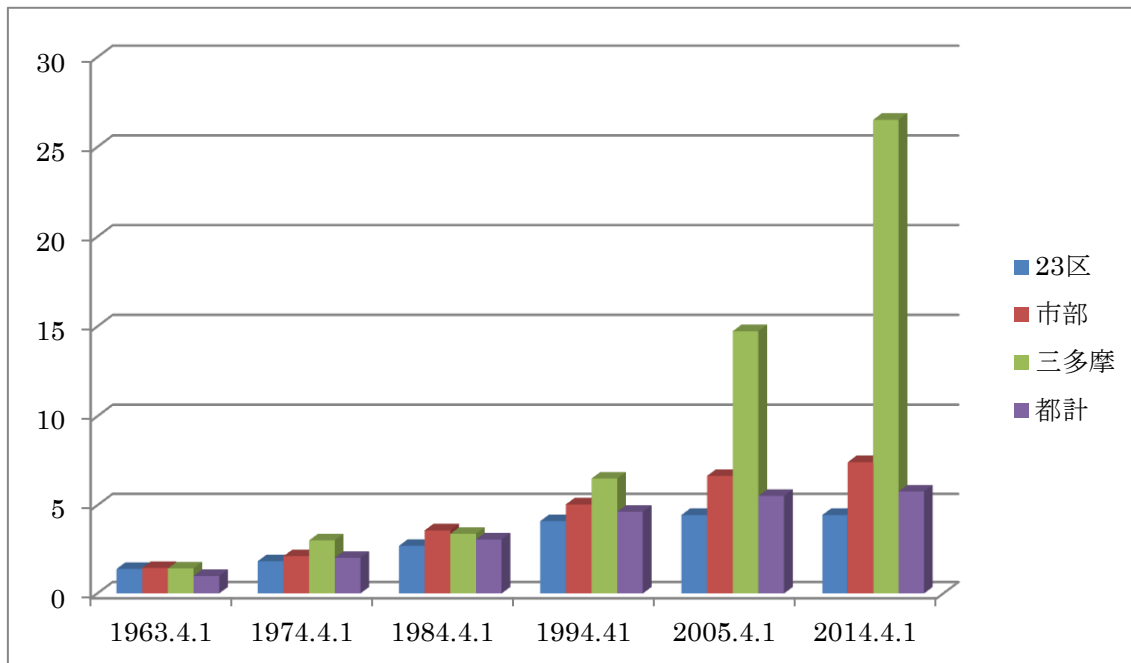
明治時代に入り、岩崎弥太郎氏(三菱創設者)の所有となった当園は、昭和13年に東京市に寄付されて一般公開されることになった。昭和28年3月31日に国の特別名勝に指定された。



### 1-3-2 明治期の公園緑地計画

1-3-1 江戸期の大名庭園では、江戸時代から受け継がれてきた緑の歴史を紐解いてきた。明治以降、東京の「緑」は、残された江戸の「緑」を継承しながら発展してきた（「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」 pp19～pp23）。六義園を三菱の創業者岩崎弥太郎が取得し、昭和13年に東京市に寄付し市から都に継承されたように、参勤交代という制度をきっかけに生まれた庭園を守り、保存してきた人々の想いを感じる。そういった人々や法整備を背景に、東京の一人当たりの都市公園・緑地の面積（グラフ1）は増加している。水の都としての東京は、都市の近代化（暗渠や高層ビル群の増加）により失われてしまったものの、受け継がれてきた緑を少しでも後世に引き継ごうとしてきた人々がいることを忘れてならないのではないか。「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」の著者である高橋氏は、「岩崎家が旧大名庭園の保存に果たした功績は大きい」という記述をされている。再開発によって都市公園以外の緑地面積は減少しているという現状を考えた時、その功績は改めて称えられるべきものであると思う。

グラフ 1 東京の都市公園・緑地一人当たり面積 (㎡) の変遷



(縦軸：㎡ 横軸：年月日 「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」 pp25)

以下（「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」 pp19～pp23）、明治期以降都市公園が歩んできた歴史である。

(1) 武蔵野台地と埋立地に築かれた江戸の町は大名屋敷の庭園、社寺境内の緑、庶民の自然を憩う緑溢れる 100 万都市だった。

(2) 日本で最初の五公園。明治 6 年 (1873) 年 1 月 15 日付太政官布達第 16 号に基づき、同年 10 月 19 日に制定された 5 公園（上野・芝・浅草・深川・飛鳥山）はいずれも江戸の緑の遺産を継承したものだった。

(3) 明治 22 年に東京市区改正設計として初の公園計画策定。明治 36 年に至り、その第一号である 日比谷公園 が誕生した。

(4) 大正 12 年の関東大震災の復興計画として、墨田公園や 52 カ所の小公園が整備された。

(5) 大正 15 年から昭和初期にかけて、日本で最初に明治神宮内外苑、江戸川、善福寺、石神井、多摩川などを風致地区と指定し緑の景観を保護した。

(6) 昭和 14 年、東京緑地計画策定。壮大なグリーンベルト計画、40 カ所の大公園が計画された。

(7) 昭和 21 年の東京戦災復興計画、同 33 年の第一次首都圏整備計画で広大なグリーンベルト計画が策定されたが実現に至らなかった。

#### ◎昭和 31 年 4 月 20 日法律第 79 号「都市公園法」の制定

同 31 年 9 月 11 日「都市公園法施行令」第一条

1 市町村（特別区を含む）の区域内の都市公園の住民一人当たりの敷地面積の標準は 6 ㎡

以上とし、市街地においては同 3 m<sup>2</sup>以上とする。

(8) 戦後の公園緑地事業は、昭和 32 年の都市計画公園の再検討～同 56 年「東京都緑のマスタープラン」を基本とした同 59 年「東京都緑の倍增計画」により進められてきた。

(9) 昭和 30 年代は戦前に計画された公園や、東京オリンピック関連公園の開園が進んだ。

(10) 同 40 年代以降は丘陵地公園の整備や臨海部で海上公園の整備が進められた。

(11) 同 50 年代後半以降には米軍基地の返還跡地の光が丘公園の整備、林業試験場移転跡地の林試の森公園整備、江東再開発防災拠点の木場公園の整備などが行われた。

(12) さらに、法律での自然公園、風致地区、近郊緑地保全区域の指定や、都市緑地保全地区の公開、条例での緑地保全地域の指定など緑の保全策を推進してきた。

この結果、平成 26 年 6 月 1 日、都立公園の開園面積が合計 2000ha を突破し、一人当たりの都市公園面積も 7 m<sup>2</sup> (区部 3 m<sup>2</sup>) に達した。

#### 【参考資料：東京の公園の現在】

戦後の都立公園の新たな開園と現在開園面積（「緑ゆたかな東京・公園ものがたり」pp23.24）

昭和 29.1.14 小金井公園（小金井市。77.4ha）

同 32.4.1 砧公園（世田谷区。39.1ha）,城北中央公園（板橋区。23.7ha）,神代植物公園（調布市。47.6ha）

同 33.5.5 多摩動物公園（日野市。60.1ha） 同 34.3.11 石神井公園（練馬区。20.1ha）

同 39.12.1 駒沢オリンピック公園（世田谷区・目黒区。41.3ha）

同 40.4.1 水元公園（葛飾区。76.6ha） 同 42.7.27 篠崎公園（江戸川区。28.1ha）

同 42.10.20 代々木公園（渋谷区。54ha） 同 53.10.1 夢の島公園（江東区。43.3ha）

同 54.4.1 殿ヶ谷戸庭園（国分寺市。2.1ha）

同 55.6.1 亀戸中央公園（江東区。10.3ha）,野川公園（調布市。39.9ha）

同 56.6.1 舎人公園（足立区。51.3ha）,玉川上水緑道（立川市から三鷹市まで。12.7ha）

同 56.12.26 光が丘公園（練馬区。60.7ha） 同 59.6.1 桜が丘公園（多摩市。27.8ha）

同 61.6.1 東白鬚公園（墨田区。10.3ha）,滝山公園（八王子市。25.9ha）,小宮公園（八王子市。25.1ha） 同 63.6.1 野山北・六道山公園（武蔵村山市。260ha）

## 2 章 日比谷公園とは

### 2-1 日比谷公園の歴史

日比谷公園は明治 36 (1903) 年 6 月 1 日開園し、本論文執筆現在 (2015 年) では、それから 112 年が経過した。日比谷公園は近代日本の首都・東京におけるセントラルパークとして、激動の時代を生きてきた。日比谷公園はわが国における初の都市計画 (東京市区改正設計) により誕生した公園として、正に日本の公園部門における近代化土木遺産の第一号と言うべきものである。公園は日本の近代化政策の最終段階にやっと登場した。鉄道、郵便、建築、銀行、学校、病院、などがいずれも明治時代の早期に導入されていることを見れば、公園の本格導入はずいぶん遅れたことがわかる (日比谷公園 十の不思議 元日比谷公園管理所長 高橋裕一氏 平成 27 (2015) 年 6 月 7 日 (日) pp1)。日比谷公園は紆余曲折の末、ドイツで林学を修めた本多静六博士 (慶応 2 (1866) .7.2) ~昭和 27 (1952) .1.29.) による設計案に基づき整備された (日比谷公園 とっておきの話 元日比谷公園管理所長 高橋裕一氏 平成 27 (2015) 年 11 月 14 日 (土) pp2)。当時の様子が以下のように残されている。

日比谷公園の新設当時、わが国には洋風の庭園や公園を設計する専門家は一人もなく、日比谷公園の創設は都市における洋風公園の嚆矢であった。いわば日比谷公園は近代的洋風公園の父ともいえるべきものである。

明治三十三年の秋、私は東京府の多摩川水源調査嘱託として、東京市庁に出入りするうち、たまたま市の顧問であった辰野金吾博士の室を訪れた。そのとき、同氏が日比谷公園の設計図を書いておられたので、話のついでに少しばかり意見を述べたところ、「君はそんなに公園のことを知っているのか、自分は建築のことならともかく、公園のほうは全く初めてだ、実は東京市では日比谷の練兵場跡に大公園を造ることになり、数年来庭師や茶の宗匠などに設計してもらったが、どれもこれも市会を通らない、そして市会の希望は、日本に初めての開設公園だから、だいたい新式な西洋風の公園を造りたいという、その設計を頼まれて困り切っているところだ、君ひとつやってくれないか」といって、むりやりにその地形図を私に押し付けてきた。(中略) なお日比谷公園の大銀杏は、私の指導下に移植したものであるが、それについて星亨と首を賭けたという珍話がある。(2-2 日比谷公園の構成 参照) 星氏と私と大銀杏を移植して果たして活着するかどうかと猛烈な議論を闘わし、私が男の意地から首を賭けても活着させると断言し、結局私のほうが勝ったという日く付きのものである。(本多静六体自伝 体験八十五年 2006 年 2 月 実業之日本社 1 章 pp164-169)

以上のいきさつを経て日比谷公園は誕生したわけであるが、明治時代に練兵場として使用されるさらに前の江戸時代直前まで、遠浅の海だったそう。「日比谷公園 十の不思議」(元日比谷公園管理所長 高橋裕一氏 平成 27 (2015) 年 6 月 7 日 (日) pp3) には、海だったこの地が江戸時代に大名屋敷として使用されていたことが以下のように書かれてい



る。

【写真 2 本多静六博士と日比谷公園設計案

公共財団法人東京都公園協会広報誌「緑と水のひろば」

2012年69号 素晴らしき日比谷公園】



本多静六林学博士設計案 明治34年

日比谷公園のある場所は江戸時代直前まで、江戸の海が入り江として入り込んでいて、遠浅の海であった。「ひびや」という地名は、海苔の原料となる海藻を採取するために、海に突き刺した竹や木の枝（ひび）が立ち並び、「ひび」を生業とする「ひび屋」から発したものとされている。

天正 18（1590）年、豊臣秀吉（？～1598）が小田原征伐で後北條氏を滅ぼした後、駿府（静岡）城を居城としていた徳川家康（1543－1616）は秀吉から関東移封を命じられ、後北條氏の所領となっていた江戸の地を与えられ、江戸城に入った。

江戸城は太田道灌（1432－1486）が 1456-1457 年にかけて築城した城で当時は規模も小さいものであった。また、江戸城近くまで日比谷入り江が入り込んでいて土地が狭かったことから、家康は文禄元（1592）年、日比谷入り江の埋め立てを行った。

慶長 5（1600）年「関ヶ原の戦い」で徳川家康率いる東軍が石田三成（1560－1600）らの西軍に勝利した後、同 8（1603）年、家康は征夷大將軍に任ぜられ、江戸に幕府を開いた。日比谷から霞が関を含む地域一帯は広大な大名屋敷となった。

—明治期以降—（日比谷公園 十の不思議 pp11 - 12）

明治維新の版籍奉還により江戸時代の大名屋敷群を取り壊した後、明治 4 年に設置され同 21 年まで続いた「陸軍日比谷練兵場」。その跡地の平坦な原っぱの約 1 / 2 の区域に計



画された「日比谷公園」の設計は、造園家の長岡安平他によるいくつかの設計案が提出されたが、いずれも不採用となっていた。(中略) 本多博士は西洋の公園が市民の健康増進を意図して設計されていることから、現在の大噴水のある広場から日比谷公会堂にかけて、広大な運動場を描き、実際にこのとおり造成された。

この場所は好むと好まざるとにかかわらず、多目的に使用され、日比谷公園開園の翌 37 (1904) 年始まった日露戦争で、同 38 (1905) 年 1 月 7 日「旅順陥落記念東京市大祝勝会」がここで開かれたのを皮切りに、同年 9 月 5 日日露間で締結されたポーツマス講和条約に対して、日本が賠償金をほぼ放棄したのは不平等だとの「日露講和条約反対国民大会」が同日この場所で開催され、怒りの民衆で充ち溢れた。その群衆が街頭に繰り出し交番や新聞社を襲撃し放火するなどし、これが歴史上有名な「日比谷焼き打ち事件」(3-1 日比谷焼き打ち事件にて後述)と呼ばれている。翌 6 日には東京に戒厳令が敷かれ、この暴動は漸く収束した。

また、明治 42 (1909) 年 11 月 4 日には、ハルビンで暗殺された伊藤博文枢密院議長の国葬の場となり、さらに大正 11 (1922) 年 1 月 17 日には、内閣総理大臣を二度にわたり勤め、また早稲田大学創始者として名高く大衆に親しまれた大隈重信 (1838-1922) の「国葬」がこの広場で行われ 30 万人の人々が参列し、その人気の大きさを示した。

大正 12 (1923) 年 9 月 1 日の関東大震災では避難民 15 万人が園内に押し寄せ園内のあちこちにバラックが作られたため、東京市はこの広場に新たに総建坪 144 棟 2970 坪の仮設建物を建設し、1638 世帯、6130 人を収容した。これらは同 14 年撤去され、昭和 3 年に至り、ようやく公園の完全復旧ができた。

戦時中の昭和 18 (1943) 年 6 月 5 日には山本五十六連合艦隊司令長官の国葬が行われた。

終戦後、日比谷公園の多くは進駐軍(アメリカ軍)に接收され、この広場は昭和 26 (1951) 年に接收が解除されるまで、米国人の格好のスポーツを楽しむ場(「ドゥリットル・フィールド野球場」)として使われた。

この広大な広場は戦後の接收解除後は、近隣オフィスの若者の球技の場として利用されていたが、排水が悪く、雨が降れば水たまり、風が吹くと埃が舞い上がり、苦情も多ことから改造が求められていた。

当時、都心の駐車場の整備が求められていたことにより、都市計画の公共駐車場を地下に建設し、その上部を芝生の沈床花壇として整備し、現在の大噴水を新設する、大広場の改造が計画され、これを日比谷公園の戦後復興とした。

以下、日比谷公園の概略歴史年表である。

<日比谷公園の歴史>

明治 21 年 (1888) 日比谷 <b>練兵場</b> 跡に公園設置を決定
22 年 (1889) 東京市区改正において東京市を代表する中央公園として議定
27 年 (1894) この年以降、様々な設計案を検討
34 年 (1901) <b>本多静六</b> 博士の設計案を採用、工事着手
36 年 (1903) 6 月 1 日、日比谷公園の <b>仮開園式</b> を挙げる。
<b>松本楼</b> などの飲食店や植木屋の出店を認める。 300 坪の <b>児童遊園</b> 完成
38 年 (1905) <b>野外音楽堂 (小音楽堂)</b> 開設、初演奏を行う。 連合艦隊大勝利祝捷会・凱旋歓迎会
41 年 (1908) 東京市立図書館開館 (日比谷図書館の前身)
42 年 (1909) 憲法発布 20 周年記念祝賀会。 <b>伊藤博文</b> 国葬
43 年 (1910) ドイツ風バンガロー様式の公園事務所完成。
大正 9 年 (1920) 東京の公園で <b>初めてのテニスコート</b> 完成 (3 面)
10 年 (1921) 第 1 回ア式蹴球全国優勝大会 (現天皇杯)
11 年 (1922) 児童遊園で児童指導を開始。ロックガーデン完成。 <b>大隈重信</b> 国民葬、 <b>山県有朋</b> 国葬
12 年 (1923) <b>野外音楽堂 (大音楽堂)</b> 完成。 関東大震災で小音楽堂、松本楼倒壊。 運動場に被災者用の <b>仮設住宅</b> 建設
13 年 (1924) 大震災の復旧工事に着手
14 年 (1925) 児童遊園 600 坪に拡張 (以後たびたび拡張)
昭和 3 年 (1928) 大震災の復興完了
4 年 (1929) <b>市政会館・日比谷公会堂</b> 完成
5 年 (1930) 第 1 回花壇展覧会開催
9 年 (1934) この頃水泳場 (プール) 開設
15 年 (1940) 児童遊園 2,850 坪に拡張
16 年 (1941) 金属回収のため外柵徴収
20 年 (1945) 大音楽堂、日比谷図書館が戦災で焼失。 大広場、雲形池、大音楽堂、テニスコート、 公会堂などが <b>進駐軍 (GHQ)</b> に接收、 <b>雲形池はダンス場</b> に
25 年 (1950) <b>日比谷花壇</b> 出店
26 年 (1951) <b>進駐軍</b> による <b>接收解除</b> 。第 1 回野外創作彫刻展開催
29 年 (1954) 大音楽堂復旧。第 1 回全日本自動車ショー開催
32 年 (1957) 日比谷図書館竣工
33 年 (1958) <b>地下鉄丸ノ内線</b> が地下中央部を貫く
35 年 (1960) 日本道路公団による地下駐車場完成

36年（1961）大噴水とテラス付沈床芝生（第二花壇）完成
37年（1962）道路拡張で西側（霞門側）の敷地が切り取られる
39年（1964）旧公園事務所を公園資料館として一般に公開
42年（1967）道路拡張で北側（桜門側）の敷地が切り取られる
46年（1971）松本楼、日比谷花壇が 過激派学生グループにより放火
48年（1973）松本楼再建、10円カレーチャリティ開始
57年（1982）児童遊園、プール取り壊す。大音楽堂・小音楽堂 改修。第二花壇にソーラ時計設置
58年（1983）健康広場、郷土の森整備
59年（1984）第2回全国都市緑化フェア会場となる
61年（1986）かもめの広場完成
平成2年（1990）東京都緑の相談所・日比谷グリーンサロン完成
12年（2000）緑の相談所を廃して緑と水の市民カレッジへ移行
15年（2003）日比谷公園 100周年記念事業開催（その一つ、ガーデニングショーは以後毎年開催）
17年（2005）オクトーバーフェスト開催（以後毎年開催）
20年（2008）解雇派遣社員ら支援の年越し派遣村開設
24年（2012）第29回全国都市緑化フェア会場となる

（公共財団法人東京都公園協会広報誌「緑と水のひろば」

2012年69号 素晴らしき日比谷公園）

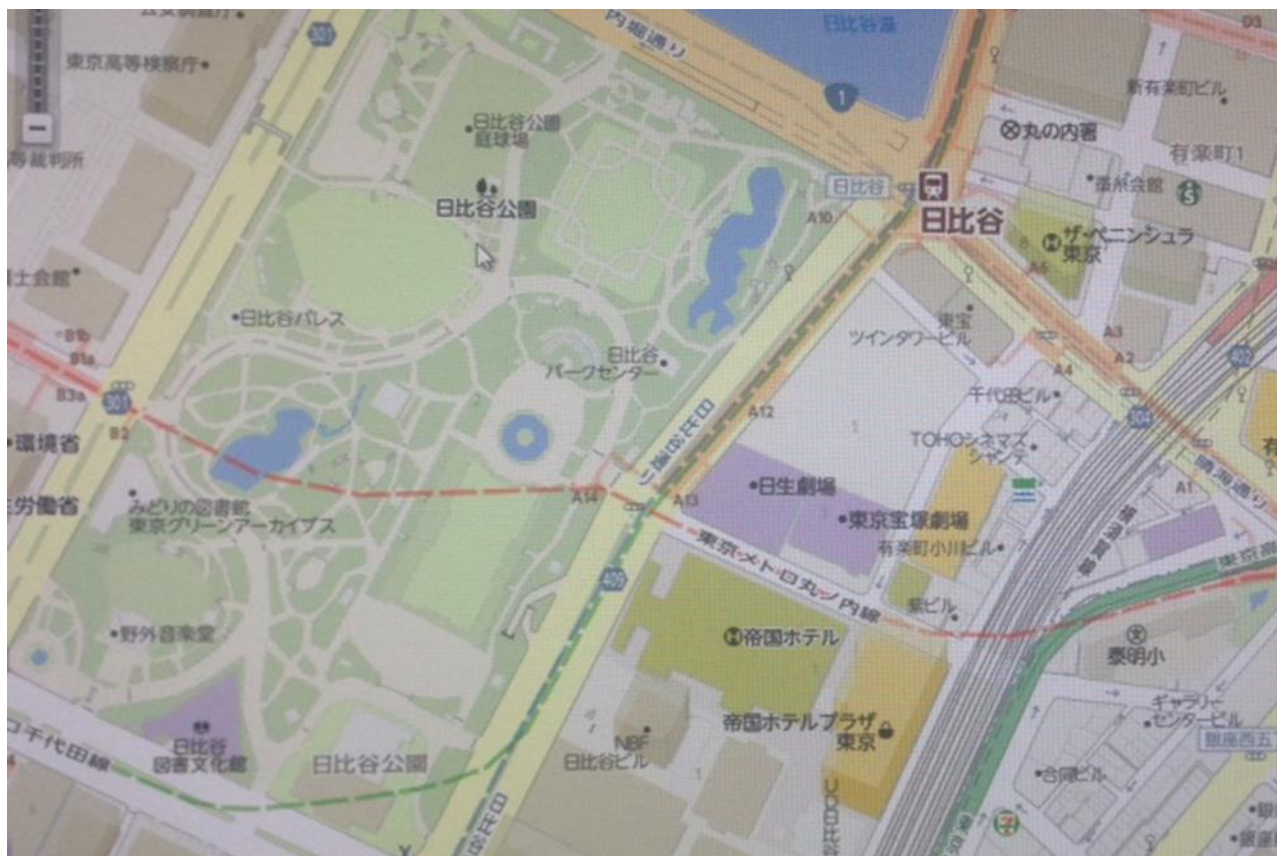


<地図 2 >

左から 日比谷公園 日生劇場 宝塚劇場 ザ・ペニンシュラ東京

※日比谷公園の東方面に銀座、西側に国会議事堂がある。

<地図 2 ↓>Google map で見た日比谷公園とその周辺



<レジャー（文化施設、観光資源）>

東宝・日生劇場・宝塚劇場・皇居外苑・日比谷公園

<ビジネス>

丸の内ビルディング、新丸の内ビルディング、大手銀行や大企業のビルが建ち並び、日本の金融・経済の中心地の一つ。丸の内二丁目の明治安田生命保険相互会社本社本館（明治生命館）は国の重要文化財に指定されている。

<商業>

大丸東京・阪急百貨店有楽町阪急・丸の内オアゾ

<宿泊>

帝国ホテル・ザ・ペニンシュラ東京・パレスホテル

☆帝国ホテル

（東洋経済オンライン 2014年01月14日 <http://toyokeizai.net/articles/-/28119>）

海外来賓を迎える民間の迎賓館として1890年に開業、日本の近代ホテルの先駆け、かつ

代表格として圧倒的な地位を誇る帝国ホテル。その行き届いたサービスには国内外から高い評価があり、ブランド力も抜群だ。日比谷駅、有楽町駅から至近。東京駅も目と鼻の先という好立地もあり、外国人宿泊客に加え、東京観光に訪れる国内観光客やビジネス客にも根強い人気を誇る。ホテル業界で「御三家」と並び称されるホテルオークラ東京、ホテルニューオータニ東京の2社より70年以上も先輩で、後進のホテルたちはみな「帝国ホテルのようなおもてなしを」と、そのサービス水準を追いかけた。接客係から配車係、靴磨きにいたるまで、歴代の名物従業員も枚挙にいとまがないほど。そうした特定の従業員に会うことが目当てで帝国に泊まる客も数え切れない。

<政治>

国会議事堂

★日比谷公園周辺においては、レジャー・ビジネス・商業・宿泊施設が非常にコンパクトに集積していることがわかった。また、霞が関駅と銀座駅の間に位置する日比谷公園は、ビジネスマンや観光に訪れる人々の憩いの場としても親しまれている。

次に、日比谷公園内の構成を追う。

以下の公園内地図を参照して欲しい。

(東京都公園協会 HP <http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/map037.html> )



以下、日比谷公園内におけるそれぞれの場所の特徴を、元日比谷公園管理所長の高橋裕一氏へのヒアリングや、公共財団法人東京都公園協会広報誌「緑と水のひろば」の 2012 年 69 号である「素晴らしき日比谷公園」を参考にし、まとめたものである。

#### 【首賭けイチョウ・松本楼】

2-1 日比谷公園の歴史でも言及したが、本多静六博士が首を賭けて移植に成功したイチョウが“首賭けイチョウ”である。もともとは日比谷見附付近(本多博士の記述には元、鍋島藩邸)にあったとされる。それが道路拡張で伐採されるのを本多博士が、「移植しても活着する。私の首を賭ける」と言って明治 35 年に移植したもの。このイチョウのそばに開園以来、洋食、フランス料理を供しているのが松本楼。本多博士の提唱で、「洋食レストラン」の導入を図った。開園に先立ち、銀座にあった「松本楼」の小坂梅吉が出店を望み、相場の 10 倍の 1 坪 3 円 50 銭で 150 坪を落札した。日比谷公園の開園と同時に開店し、日比谷公園で洋花や樹木を楽しみ、吹奏楽を聞き、「カレー」と「コーヒー」を楽しむという、洋食の普及に大きく貢献した。昭和 46 年 11 月 19 日、日比谷公園内に封じ込められた過激派学生たちにより、放火され全焼。毎年 9 月 25 日の「10 円カレー」は再建を感謝し 48 年から続く。

#### 【日比谷公会堂 市政会館】

公園側は公会堂、表通り側は市政会館と表裏一体の建物。昭和 4 年の完成で公会堂部分は 4 階建、階下席・階上席合わせて 2,074 人を収容できる。市政会館は地上 6 階建に塔屋 4 階がのり高さ 42m。都選定の歴史的建造物である。

#### 【大噴水】

これらが完成したのは昭和 36 年。その前は運動場（大広場）で、天皇杯サッカーの第 1 回大会（大正 10 年）なども開かれたが、国家的行事の舞台でもあった。戦後は全日本自動車ショー（東京モーターショー）が昭和 29 年の第 1 回から第 4 回まで開催。現在は大噴水広場を中心に数々のイベントが催されているものの、その反面イベント時に噴水を止めてしまうことや、噴水自体で人を集客出来ていないのが課題だと元公園管理所長の高橋さんが仰っていた。

#### 【日比谷図書文化館】

明治 41 年、東京市立図書館として誕生（下の絵葉書）。昭和 20 年 空襲で全焼し、現在の建物は昭和 32 年に完成。永く都立日比谷図書館として親しまれたが、平成 23 年に千代田区立日比谷図書文化館として生まれ変わった。

#### 【自由の鐘】

昭和 27 年、米国の匿名志が連合軍総司令官リッジウェイ大将に託して日本国民に贈り、寄贈を受けた日本新聞協会が同年設置。アメリカ独立宣言の際に鳴らされた鐘のレプリカである。

#### 【鶴の噴水】



鶴の噴水は開園以来、日比谷公園のシンボル。戦時中は噴水が外され池も埋められたが、戦後再び据え直された。絵葉書と比べ首賭けイチョウの見え具合（現在は先端だけがのぞく）が歴史を物語る。

#### 【心字池】

外濠を活かした心字池は、設計案に「身投げ名所になっては困る」と注文が付き、直接飛び込めないよう石垣下に1間ほど地面を張り出したという。当初池中には鷺鳥とオモダカの噴水があった。石垣側の風景も石垣上からの公園周囲の眺めも開園当時とではまさに今昔の感がある。

#### 【大音楽堂】

大正12年に開設。絵葉書の建物が初代で現在の建物は3代目。収容人員は立見席450人を合わせて3,114人。今も様々な音楽ジャンルの公演に加え各種集会の利用も多い。

#### 【小音楽堂】

わが国における洋楽は横浜で始まったが、本格的な野外音楽堂として明治38年に開堂された。軍楽隊による洋楽演奏は大変な人気を博した。戦後は消防庁（水曜）と警視庁（金曜）の音楽隊が演奏し、今も昼休みに続く。現在の建物は3代目。

#### 【幼稚園】

大正13年、日比谷公園内には関東大震災の被災者3万人がバラックで仮住まいをしていた。当時の井下清東京都公園課長（1884 - 1973）はこれらの侘しい生活を送っていた家族の子供たちへの贈り物として、児童指導を行うこととし、同課長の要請で、アメリカ留学から帰国し、YWCAで児童指導の仕事に携わっていた末田ます女史（1886-1953）が日比谷公園の児童指導員に着任し奮闘された。近年でも、「日比谷幼稚園」の卒業生と仰る方が高橋氏の在職中、時々公園の窓口にお見えになることがあったという。

#### 【ハナミズキ】

明治45年、東京市長より米国ワシントン市へサクラを寄贈。返礼として大正4年に贈られ、日比谷公園にも植えられた。当時の木はないが、それを受け継いでハナミズキが咲き誇る。



## 2-3 政治のシンボルとしての日比谷公園

2014年11月11日、あのショッキングな事件を知っているだろうか。日比谷公園で焼身自殺が起きた事件である。以下、事件に関する朝日新聞デジタル（自ら火、訴えたかったのは 日比谷の男性焼身自殺1カ月 清水大輔、甲斐弘史 2014年12月11日10時08分 <http://www.asahi.com/articles/ASGDB4S2SGDBUTIL01Q.html>）の記事である。

ある初老の男性が、東京・日比谷公園で自分の体に火を放ち、命を絶った。現場には一台のビデオカメラ。そして「抗議文」が残されていた。それから1カ月。男性は何を訴えたかったのか。

10日午後6時半。日比谷公園に約30人が集まった。ろうそくなどを並べ、男性の死に、黙禱（もくとう）を捧げた。

「事件」が起きたのは1カ月前のほぼ同じ時刻だった。11月11日、木々に囲まれた広場の真ん中で、男性は自らが映るようにカメラを置くと、油をかぶり、火をつけた。

《集団的自衛権容認に基づく安保法制の立法準備及びガイドライン再改定などを即刻やめよ》《沖縄の辺野古・高江の基地建設を今すぐ中止を》。カメラに貼られた「抗議文」は衆参両院議長と安倍晋三首相に宛てられ、「新田進」とペンネームを記していた。

ペンネームを手がかりに浮かんだ男性は、まじめさと熱情が同居する人だった。

都内に住む60代。数年前まで裁判所に勤めていた。そのかわら、ペンネームで様々な活動をしていた。その一つが映画作りだった。

1995年に沖縄で起きた少女暴行事件。抗議のため8万人以上が集まった県民大会に足を運び、「軍隊のない、悲劇のない、平和な島をかえして」と訴える声にレンズを向けていた。他にも社会派の作品を10あまり撮った。企画、演出、撮影を1人でこなすことが多く、小さな集会場などで自主上映した。原発や憲法について考える市民団体にも加わっていた。今年6月には、団体が発行している新聞紙上で集団的自衛権の行使を認める閣議決定方針を「断固許さない」と書いた。

「かといって、デモで先頭に立つタイプじゃない。むしろ裏方タイプ」と古い知り合いは言う。閣議決定後にあった抗議集会では、机の搬入などの会場設営に動き回った。そのイメージと「焼身自殺」がかみ合わない、友人らは驚く。

じつは最近、重い病を抱え、活動を制限していた。周囲の知人らは、夜間の活動を控えるようになった本人に対し、病名をたずねることもなく、気遣いながら接し続けていた。

最期の日。日比谷公園近くの国会周辺では「総がかり包囲行動」と銘打って、約7千人が集団的自衛権などへの抗議の声をあげていた。ある知人は「彼なりに、一番激しい形で怒りを表現しようとしたのだろう」という。現場に残されたカメラは、好きだった映画作りに使っていたものだった。（清水大輔、甲斐弘史,2014.12.11,朝日新聞デジタル）

この男性が起こした行動の是非を本論では言及しないが、集団的自衛権容認に基づく安

保法制や、沖縄の辺野古基地建設の問題に対して起こした極めて政治的な意味合いが強い出来事なのは間違いないだろう。しつこいようだが、本論では男性が起こした行動に関して意見を述べるものではないし、安保や基地の問題に関しても中立な立場をとるものとした。しかし、何故この男性は日比谷公園という場所を選んで行動したのだろうかという疑問がある。「2-2 日比谷公園の構成」で記述した通り、日比谷公園は国会から近い距離に位置しているし、2015年にも安保強行採決として多くの人々が周辺においてデモ活動を行っている。以下、その記事である。

安全保障関連法反対や脱原発を訴える集会が2日、東京都千代田区の日比谷野外音楽堂で開かれ、デモ行進と合わせて3000人以上が参加した。

参加者らは安保関連法の成立を強行採決だと批判し、「民主主義を取り戻そう」と声を上げた。

集会は、福島第1原発の事故以降に原発ゼロに向け活動している「首都圏反原発連合」などが呼びかけた。集会後は、週末でにぎわう新橋や銀座をデモ行進し、「原発はいらない」「命を守ろう」と訴えた。

集会で登壇した中野晃一・上智大教授（政治学）は安保関連法や原発再稼働を「国家の暴走によって私たちを屈服させようとする動き」と批判。「私たちの生活や尊い命、人間の尊厳を守る闘いだ」と述べた。

参加した杉並区の無職、山下源一さん（70）は「原発事故から4年半がたったが、政治家は事故の恐ろしさをずっと心に刻んでほしい」と原発反対を訴えていた。（【内橋寿明】デモ行進：安保法と原発に反対し 東京・日比谷 毎日新聞 2015年10月03日 東京朝刊 <http://mainichi.jp/shimen/news/20151003ddm012040032000c.html>）

国の政治の中心である『国会』を取り巻くデモに関しても、本論においては中立の立場を改めて確認しておくが、私は国会に近いからという理由「だけ」で日比谷公園は政治的にシンボリックな場所となっているわけではないと考える。もちろんその理由を否定するわけではないが、空間としての意味合いという側面からも政治的な性格を持つ日比谷公園を考えたいと思う。「日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ（進士五十八著 2011年5月20日 鹿島出版社）」には、日比谷公園について次のような記述がある。

もともと古代ギリシャのアゴラ（agora）、古代ローマのフォーラム（forum）、ピアッツァ（piazza→英語のプラザ（plaza））、などといった言葉が現代にも生きているように、人びとが都市に集まって住むようになると、集会や物々交換など、政治的・経済的な活動空間である「広場」が誕生する。いわゆるコモンスペース（common space）と同様、公園緑地系統（openspace system, park system）の一部をなすのが広場であるが、近代以後の大衆社会になると、政情によってはかなりラディカル（激情的）な政治空間に変容する。

わかりやすい例を挙げれば、中国北京の「天安門広場」がある。（中略）国家広場というものは、ときとしていわゆる天安門事件のような流血の惨事をみせる、凶暴性を発揮する

空間となる。その点で、造園家が想定していない特異な性格をもちうるのである。(pp96-97)

つまり、日比谷公園においても当初期待されていたわが国初の近代的洋風都市公園として人々の生活を潤す役割に留まらず、国家的行事の開催、デモ集会や過去の日比谷焼き打ち事件に代表されるような政治的な性格を持つ空間に変容しているのである。日比谷公園における政治的な性格についての詳しい考察は次章 3 章に行いたいと思う。公園空間におけるその役割の可能性についての言及をし、2 章の結びとしたい。

設計者が想定した意図とちがう利用がみられるのは、公園空間の自由度を表象すると同時に、市民のパークライフ、市民の公園利用行動の多様性を示すもので、大いに歓迎されてよい。そのように考えると、設計者が想定していない「国家広場」的な出来事がみられることは、普段気づかない社会的政治的意義が公園にはあるということを証明してくれるものと理解してこれも歓迎すべきかもしれない(日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp97)。

## 3 章 日比谷公園と人々

### 3-1 日比谷焼き打ち事件

「2-3 政治のシンボルとしての日比谷公園」では、日比谷公園が持つ政治的な性格と同時に、公園空間というものの持つ設計者すら予想していない多様な利用のされ方、また時には国家広場として重要な社会的意義をも持っていることがわかった。本論の中核部分である 3 章では、日比谷焼き打ち事件に代表されるこれまでの日比谷公園での動乱を考察し、大衆と公園空間との関係性にも言及していきたい。

まずはじめに、動乱の舞台となる日比谷公園の国家広場的な公園空間について述べる。日比谷公園には三つの国家広場的な空間があると、「日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ」(pp98-99)には述べられている。そのひとつは、開園時より広場性をあらわして設計された日比谷門すぐに広がる「運動場」と「競争道」エリアで、一九〇三(明治三六)年六月一日の新聞記事で紹介される施設総括では、運動場四、八七〇坪、競走場(道)二、九五〇坪と表記されている。他は、一九二三(大正一二)年七月七日に落成記念大音楽会が開かれた「大音楽堂」であり、もうひとつは一九二九(昭和四)年十月十九日落成した「日比谷公会堂」である。後二者は共に、広場ではないが、そこでのイベントは実に国民広場、国家広場的な性格のものも少なくなかった。いずれにせよ、合わせて約八、〇〇〇坪、二万六〇〇〇平方メートル。天安門広場と同じ密度で計算すれば三万二五〇〇人が集まれることになる。

次に、日比谷焼き打ち事件の原因となる背景に迫る。「日比谷騒擾事件の顛末(松井茂手記 昭和 27 年 9 月 5 日印刷 杉田屋印刷株式會社)」には、次のように当時の状況が述べられている。

明治三十八年六月九日米國大統領は公文を日露兩國に寄せ講和を勧め來つた。其處で國民は各所に集會を開き、我國の要求すべき講和條件を議し、殊に我國が戰勝國なるの故を以て露國をして土地を割讓せしめ且つ軍費を償はしむべしと主張する等、其の意氣は頗る盛んなものがあつた。講和會議の全權委員小村壽太郎氏は米國に向つたが、十二箇條の要求條件を提出して講和談判に着手したるに、露國全權の拒む所となり、主要なる償金、割地の二要求は拒絶せられたが、小村全權は中央政府との折衝の結果、遂に樺太南部一半の割讓のみに止まつて調印を了することとなつたのが同年の夏であつた。一度び此の事が我國內に傳はるや、之は戰勝國としての一屈辱なりとの論が沸騰し來り、七博士の反對を始め國民の憤慨は想像以上であつた。茲に各派を結合して「講和問題同志聯合會」なるものが組織せられ、同年八月三十一日、「我が全權委員の議定せる講和條件は戰勝の効果を没却し、君國の大義を誤るものなりと認む」を決議し、これを一般に公表し、また一面に於いて在米小村大使に對し「閣下の議定せる講和條件は國家の大義を誤るもの故、速に處決して罪を天下に謝せよ」と電報し、更に其の決議實行の方法として、國民大會を東京に開催する事となり、或は檄文を天下に飛ばしたり、或は上奏を爲したり、或は游説其の他言

論の方法によりて條約の破棄に努むる等の事を、講和問題同志聯合會は決議することとなり、之が委員を設けたのである。

要するに同會の主張は講和條約の議定書は千舌の屈辱であり、且つ十萬の忠魂をして徒死に陥らしめ、又國民の十年の臥薪嘗胆は何の爲めぞ、斯くては國民は一朝にして動搖し、戰勝は却つて亡國の端を開くものである。當局の罪許すべからず、苟くも聖旨を奉戴する者は宜しく起つて此の屈辱の講和を拒み、之を排斥すべきである。此の條約を不成立に終らしむと否とは、一にかかりて國民の決心如何にあり、憂國の志士は起つて機を失ふこと勿れ」と云ふにあつた。

斯くて同志は各府懸を遊説したが、民衆も皆奮つて條約の破棄を唄ふるに至り、國論沸騰の盛なりしこと、實に想像以上のものがあつた。

小村全權は明治三十八年七月二十五日紐育に到着し、八月十日よりポーツマス海軍鎮守府に於て講和會議は開始されたのである。會議の劈頭全權は我が講和條件を提出し、同月十二日彼の回答があつたが殆ど全部拒否され、爾來土地の割讓問題と戰費の賠償問題を中心として激烈に議論が重ねられ、一時は殆ど決裂せんばかりであつたが、ルーズヴェルトの調停により漸く八月二十九日妥協が成立し、九月五日兩國全權之に調印し、十月十四日批准、十六日講和條約發表と共に、平和克復に關する詔勅が渙發せられ、明治三十七年二月開戦以來、一年十カ月を經過して茲に講和の成立を見たのである。而して成立したる條件の主なるものは

- 一、韓國に於ける日本の宗主權
- 二、露國の滿洲撤去乃特權拋棄
- 三、滿洲の商工業發達の措置、樺太の割讓一部實撤
- 四、遼東半島租借權の讓渡
- 五、東清鐵道（ハルビン、撫順）の讓渡
- 六、露國沿海漁業權の許典

等で、戰費の賠償や露國極東海軍力の制限等は撤廢することとなつた。何れにするも當時我國では非常なる屈辱外交として國民の期待を満足せしめることを得ず、遂に日比谷焼打事件をも惹起するに至つたのである。（pp3-pp5）

以上のように、臥薪嘗胆に耐え忍び外交に不満を持った國民たちは、日比谷公園内の「運動場」と「競争道」エリア・大音楽堂・日比谷公会堂の 3 つ広場、すなわち国家広場的な空間としての舞台装置も相まってデモが加速し、事件に突入していったのである。

### 3-2 日比谷公園という居場所

3-1 日比谷焼き打ち事件では、日比谷焼き打ち事件が起こつた空間とその背景に迫つた。「日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp101-103」には、日比谷焼き打ち事件の後も、政治的な性格を持って国家広場的な公園空間として存在していたという記述がある。

日比谷公園の南西の隅は現在、「郷土の森」と明るい噴水広場（「かもめの広場」）になつて

いる。開園時は貴族院議長官舎敷地で、その後家庭裁判所、地裁分室となり、昭和 59 年の第二回全国都市緑化フェアを経て、昭和 61 年 4 月 1 日、やっと角地の全部が開園された。この隣地で現在の野外大音楽堂周辺は、本多の設計図によるとドイツ林苑風と称された評判の芝生樹林地であった。本多静六は北ドイツのベンゼン市立病院の園地、植栽、園路を範として設計したと述懐している。ところが一九〇六（明治三九）年、戦没用の徴発馬をここに多数繁殖していた際、馬が樹皮を食い荒し森林美を破壊してしまった。その後始末を兼ね、演劇、音楽、社会教育催事用の施設を東京市は計画したのだった。ちょうどフランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテルが建設中の折である。建設現場の残土や大谷石の残材を譲り受けて敷地 2800 坪を整えるなどした。ステージ 53 坪、聴衆席、立席を加えれば 6000 人収容可能で、完成（1923（大正 12）年 7 月 7 日）から 2 か月後の関東大震災にも壊れず、ホールがほかにはない時代、東京市民の娯楽場として多いに活用された。

すでに都内に立派な劇場、音響効果抜群のホールが次々できて、大音楽堂の意義を失いつつあるところである。岸内閣のすすめる日米安全保障条約の改定への反対運動が起こり、日比谷公園はその舞台としてたびたび登場することになる。1959（昭和 34）年 4 月 15 日、「安保阻止国民会議第一次統一行動」の中央集会在日比谷公園で行われた。同 11 月 27 日、第八次統一行動では、国会請願のデモ隊約二万人が国会構内に乱入、翌年 5 月 14 日には第二回国会請願デモ 10 万人を数え、5 月 26 日に 17 万人が国会を包む。翌 1960 年 1 月には全学連の学生 700 人が羽田空港ビルに座り込み警官隊と衝突した。6 月 15 日に全学連は国会突入を図り警官隊と衝突、東大生樺美智子が死亡し、負傷者は 1000 人を超した。6 月 18 日には 33 万人が国会デモを行い、6 月 24 日、日比谷公会堂で樺美智子国民葬がとり行われた。こうした一連のデモの集合場所の多くが、いわゆる「日比谷の野音」であったのである。

2-1 日比谷公園の歴史で述べた通り、日比谷公園は一般に言われる都市公園のように、「大名庭園」や「社寺境内地」の緑から由来するところではない。江戸時代は大名屋敷群として、その後明治時代以降は練兵場や公園開園後には国家広場的な空間として政治的な性格を含む特別な都市公園として歴史を歩み、今なおデモの集合場所となっていることを象徴として政治のシンボリックな空間となっている。

ここで一度他の公園との比較を行いたい。「群衆の居場所 都市騒乱の歴史社会学 中筋直哉著 2005 年 2 月 25 日初版 新曜社発行 pp107」には次のように記述されている。浅草公園には興行資本の手で江戸以来の見世物・芸能が残される一方で、上野公園は内務省によって殖産興業政策の展示場—博物館・博覧会場に流用されてしまった。園内も、浅草公園では公園というよりむしろ繁華街の裏庭だったし、上野公園ではむしろ博物館の前庭だった。人々はそれらの公園で繁華街や博物館を体験することはあっても、都市公園を新たに体験することはなかったのである。とくに広場の体験—遮蔽物やストリート・ファニチュアのない大規模な広場に集散する体験は、裏庭や前庭では到底得られるものではなかった。

それらの公園が既存の寺社地を起源にしたのとは対照的に、日比谷公園は大規模な空地を起源にしていた。すなわち江戸期には有力大名の上屋敷であった街区が、維新後に均されて、二〇年間ほど陸軍の練兵場として使われていた。その間東京唯一の練兵場として、天皇の観兵式典が六〇回も挙行された点は重要である。単なる軍事訓練の場ではなく、宮城至近という立地の良さから、早くから大規模な国家行事の開催地としての価値を認められていたのである。もっとも観兵式はあくまで軍内の行事であるから、まだそこを真の意味で群衆の居場所とは呼べない。

わが国初の近代的洋風都市公園といわれるだけあって、洋食の普及や今の幼稚園の元祖ともなってきた日比谷公園。官庁街や宮城に隣接しているという空間的側面や、国家広場的な空間として人々を受け入れてきた歴史の変遷が、あらゆる分野の先駆けとして存在し続けている所以なのではないだろうか。そのような真の意味での群衆の居場所になる過程が、「群衆の居場所 都市騒乱の歴史社会学 中筋直哉著 2005年2月25日初版 新曜社発行 pp110 - 111」に描かれている。

一八八三（明治一六）年にすでに警視庁は「公園揭示」を制定しており、日比谷公園にもそれに準じた禁則の揭示が立てられた。（中略）大通りと同じく都市公園においても、国家は人びとの行動を個別に監視・制御したのである。なかでも商業・芸能の原則禁止の条項をとくに重視すべきである。寺社地を起源にする公園において商業・芸能を許可することで徴税の基盤を確保したのとは対照的に、日比谷公園は最初から国家が「自腹を切って」経営するほど重要な価値をもつ空間だったのであり、その意味で、それは他から明確に差別された都市空間だった。

さらにいえば、この条項は、人びとがそこで誰かに何かを為す存在—主体であることを禁止され、逆に誰かに何かを為される存在—対象に貶められることを象徴的に示す事実ではなかったか。誰かとはもちろん、人びとの誰かではない。国家である。何かとはもちろん、人びとが自ら求める何かではない。人びとに国民—帝国を支持する—単位である自らを幻視させる近代国家の演出である。

以上のように、日比谷公園の成立は、それまで近隣の大通りという狭い範囲に留置されていた、集散するという都市民衆の行動を、大通り・路面電車を経由した、都心の大規模な広場への自由な集散へと解放する一方で、国家が揭示を通してそこでの行動を個別に監視・制御するとともに、宮城や官庁街の壮麗な建築群を舞台装置として、帝国の威厳を物理的・制度的に演出するというように、彼らの身体と精神のあり方を特定の形式に整形する—そのような群衆の居場所を成立させたのである。

### 3 - 3 日比谷公園内外の変遷から見る東京

この章では、これまで述べてきた日比谷公園内外の空間的な側面と、日比谷公園の政治的な歴史、数々の出来事とを改めて考察したいと思う。

まず、現在の日比谷公園周辺を見てみよう。一言で言うならば、2 - 2 日比谷公園の構

成 で述べた通り、日比谷公園周辺においては、ビジネス・政治・商業施設が非常にコンパクトに集積している。その中でも特筆すべきは、日本のビジネスの中心である丸の内（大手町）であり、政治の中心である霞ヶ関の官庁街（国会）であり、日本西洋の文明開化の地、銀座であろう。2-1 日比谷公園の歴史 の日比谷公園の概略歴史年表を見ると、日比谷公園は前述の特筆した空間の誕生からその歴史を共にしてきた。明治維新から西洋文化を見様見真似に都市も近代化を遂げ、関東大震災や第二次世界大戦での大空襲に打ちのめされそうになりながらも立ち直って歩んできた激動の東京の歴史を、日比谷公園は東京の人々と共に歩み続けてきたのである。

そして、次にその日比谷公園内の空間に目を向けたい。公園内の記述においても2-2 日比谷公園の構成 で行ったが、今回は「日比谷公会堂 市政会館（写真3-1）」について言及したい。写真3-1は公園側から撮影したものであり公会堂となっていて、表通り側は市政会館であり、表裏一体の建物で、都選定の歴史的建造物である。昭和4年竣工であり関東大震災復興のシンボルともなった日比谷公会堂。安田善次郎の遺志に応え、東京市長だった後藤新平が共鳴し、当時としては巨額の350万円の寄附を受け、これをもとに「市政調査会（市政会館）」およびそれに併設する公会堂として建設された

(<http://www.kanko-chiyoda.jp/tabid/309/Default.aspx>)という市政を中立的な立場から調査する組織と、自由な公共空間のホールとしての建物が、今なお残っているのである。

最後に、これまで2-3 政治のシンボルとしての日比谷公園 より述べてきた政治的な出来事と絡め考察したい。日比谷公園はまさに都心に囲まれた（写真3-2 日比谷公園を囲む東京都心）空間に位置し、その内部や周辺には激動の歴史がある。加えて、国家広場<写真3-1 日比谷公会堂 市政会館>





<写真 3-2 日比谷公園を囲む東京都心>



的な要素を持つ広場や、歴史的にも政治色の強い建物を包容しており、日比谷焼打ち事件を象徴とするような政治的な出来事が数々起きてきた。日比谷公園の内部や周辺において他の公園とは一線を画する存在であり続け、その内外の相乗効果が今なお政治のシンボルとしての日比谷公園を醸成しているのではないだろうか。

## 4 章 都市公園運営の攻防

### 4-1 都市公園の課題

筆者は本論文の執筆に際して、元日比谷公園管理所長の高橋裕一氏にヒアリングをさせて頂いた。これまでの歴史や公園内にいる動植物などのお話を伺い、大変勉強になったのだが、その中でも特に印象に残ったことがあった。それは、「もっと日比谷公園のありのままを楽しんで欲しい。また、そのような仕組みづくりをするべきだ。」という高橋さんの想いを伺ったことである。「日比谷公園のありのまま」。それこそが日比谷公園の持つ唯一無二の魅力なのである。それは、ただ単に水や緑にあふれた豊かな空間というだけではないと考える。日比谷公園には、その大地性、場所性、自然性、時代性、そして百十余年の歴史性と公園生活性が掛け合わさって「日比谷公園力<sup>(3)</sup>」と「公園文化力<sup>(4)</sup>」が醸成されている（日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp217）のである。便利で機能的だというだけでたえず更新され、地価に応じた収益のためにコマーシャルリズムで上辺だけを飾りたてた銀座や有楽町の粧いとまったく逆の雰囲気、この公園空間の価値、人びとが日比谷にまで足を伸ばす魅力の本質だということを忘れてはならない（日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp217 - pp218）。

ここまで、日比谷公園の魅力・空間的価値について言及したが、ここで一度日比谷公園に留まらず都市公園全体を視野に入れ、公園運営について考察していきたいと思う。公園・緑地の都市計画決定面積と開園面積の推移（グラフ 4-1）状況を見ると、平成 12-16 年における年間整備量は厳しい財政状況<sup>(5)</sup>の中で減少傾向にある。今後、公園・緑地整備を進めていくためには、重点的に整備する公園・緑地を定める必要がある（[http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/kouen\\_ryokuti/kr\\_pdf/kr\\_guide01.pdf#search=%27%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%81%AE%E7%B7%91%E5%9C%B0%E9%9D%A2%E7%A9%8D%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27](http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/kouen_ryokuti/kr_pdf/kr_guide01.pdf#search=%27%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%81%AE%E7%B7%91%E5%9C%B0%E9%9D%A2%E7%A9%8D%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27)）という。

---

#### 【注】

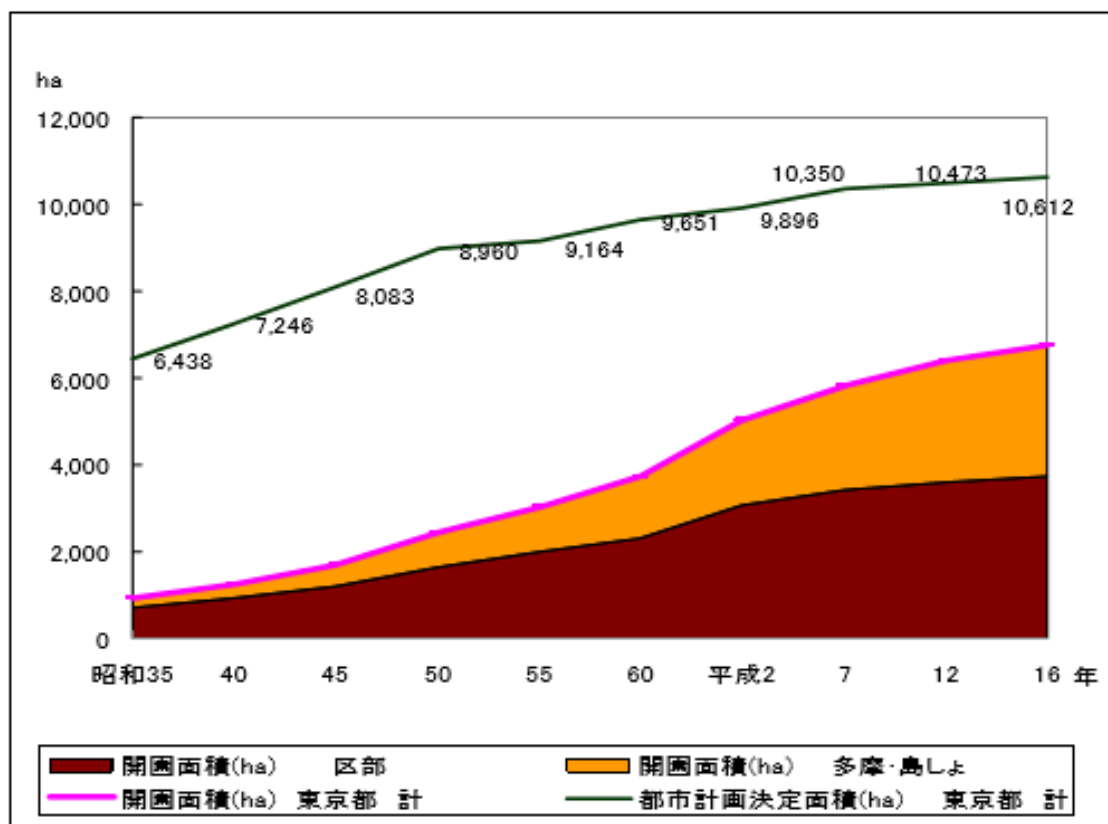
(3) 日比谷公園力（日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp217）

日比谷公園百十余年の波乱万丈の公園生活史をみてもわかるようにこの公園は“人間的出来事”と“人間的雰囲気”が横溢している。たくさんの人びとの永い間の記憶や思い出、人びとの人生の面影がつまっている。人びとの生き方、それはライフスタイル、“文化”である。そういうたくさん文化が集積して“日比谷文化”ができあがっている。

(4) 公園文化力（日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ pp217）

都市側（市街地内の新陳代謝の激しい建物群など）に欠けている自然でおだやかな時間が流れる「空間」であり、豊かな歴史の積み重なりを容易に感じさせる「景観」であり、これこそ日比谷公園と実感できるような「公園文化」である。

<グラフ 4 - 1 都市計画決定面積と開園面積の推移>



(注) 開園面積には、都市計画決定されていない都市公園や児童遊園、国民公園等の面積を含む。  
(作成：東京都都市整備局)

[http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/kouen\\_ryokuti/kr\\_pdf/kr\\_guide01.pdf#search=%27%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%81%AE%E7%B7%91%E5%9C%B0%E9%9D%A2%E7%A9%8D%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27](http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/kouen_ryokuti/kr_pdf/kr_guide01.pdf#search=%27%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%81%AE%E7%B7%91%E5%9C%B0%E9%9D%A2%E7%A9%8D%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27)



#### 4-2 海外との比較

都内における都市公園をめぐる状況は決して楽観的なものではないが、海外の都市における一人当たりの公園面積（表 4-1）との比較を通じて、その状況をさらに考察していきたい。

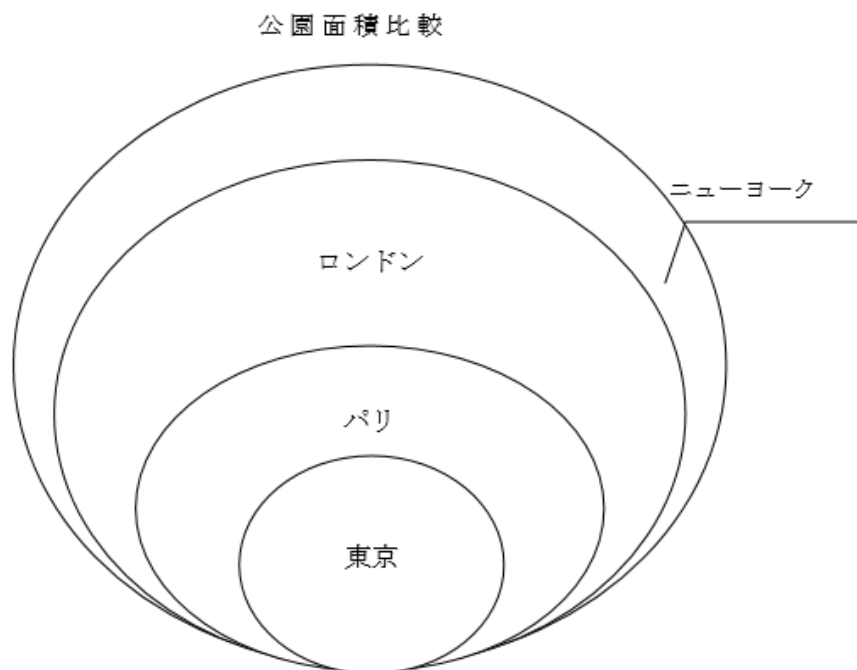
<表 4-1>

(表) 世界主要都市の一人当たり公園面積

都市名	国名	面積 (m <sup>2</sup> )	調査年
ニューヨーク	アメリカ	29.3	平成 9 年
ロサンゼルス	アメリカ	17.8	平成 6 年
ロンドン	イギリス	26.9	平成 9 年
パリ	フランス	11.8	平成 6 年
ベルリン	ドイツ	27.4	平成 7 年
東京	日本	5.3	平成 12 年

(注) 建設省（現国土交通省）調べ

これを図にあらわすと以下のようなになる。



[http://www.kansa.metro.tokyo.jp/PDF/15houkatsu/14/14\\_2kouen.pdf#search=%27%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%85%AC%E5%9C%92%E6%95%B4%E5%82%99%E8%B2%BB%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27](http://www.kansa.metro.tokyo.jp/PDF/15houkatsu/14/14_2kouen.pdf#search=%27%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%85%AC%E5%9C%92%E6%95%B4%E5%82%99%E8%B2%BB%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27)

上記の図を見ると一目瞭然であるが、東京における一人当たりの公園面積は海外の主要都市と比較すると極端に低いことがわかる。東京は近年ヒートアイランド現象や東日本大

震災が起きるなど、海外に目を向けても一層公園緑地に期待する機能は多いはずなのに、である。

無秩序に立ち並ぶ高層ビル群を批判するつもりはないが、急ピッチに進められた乱開発のツケから目をそらし続けるわけにもいくまい。人口密集地帯の中に残された緑、公園をいかに効率的に使っていくのか。知恵を絞り都市の中での存在感を高めさせていく必要があると強く思う。

#### 4-3 観光のススメ

日本は、WHO加盟国の中で世界一の長寿国<sup>(6)</sup>となっている。しかし、同時に深刻な少子高齢社会を迎えている。少子高齢社会は、若者の負担が増えるために年金制度を崩壊させかねないし、働き手の減少によって経済にも打撃を与える。そこで注目を集めているのが、観光産業である。観光は、我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野で、経済波及効果の大きい観光は、急速に成長するアジアをはじめとする世界の観光需要を取り込むことにより、地域活性化、雇用機会の増大などの効果を期待できる。さらに、世界中の人々が日本の魅力を発見し、伝播することによる諸外国との相互理解の増進も同時に期待できる。国は2006年12月に「観光立国推進基本法」を成立させ、2012年3月には新たな観光立国推進基本計画を閣議決定させてきた。しかし、日本の観光産業の現状はまだまだ道半ばといったところ(グラフ4-3)。日本は世界の中でも有数な経済大国であり、先進国であるが、観光産業となると世界で22位であり、遅れを取っていると言わざるを得ない。しかし、近年では訪日外客数の成長が著しい。2014年から2015年の月別訪日外客数を比較すると(表4-1)どの月でも約50%も数字が伸びていることがわかる(1月を除く。1-10月平均では約48%増加)。

ここである一つの提言を行いたい。元日比谷公園管理所長の高橋裕一氏は、日比谷公園に散策に訪れる外国人の方々をちらほら見かけた(\*)というが、公園空間を一つの観光スポットとして確立させ、「観光」→「収益」→「財源の確保」→「(整備費の増加により)質の高い(訪れたいと思う)公園の演出」というサイクル(図4-1)を回すことができるのではないだろうか。その結果、需要が高まれば必要に応じて「公園面積の増加」も期待できるだろう。そこで重要になるのは、重点的に整備する公園・緑地を定めるのはもちろん

---

#### 【注】

(6) 世界一の長寿国

日本人女性の平均寿命は世界最長で87.0歳となっており、2位スペイン、3位スイス、4位シンガポールと続いている。日本人男性の平均寿命は世界第8位(80.0歳)で、上位9位の国々において男性の平均寿命は80歳を超えた。

WHO HP

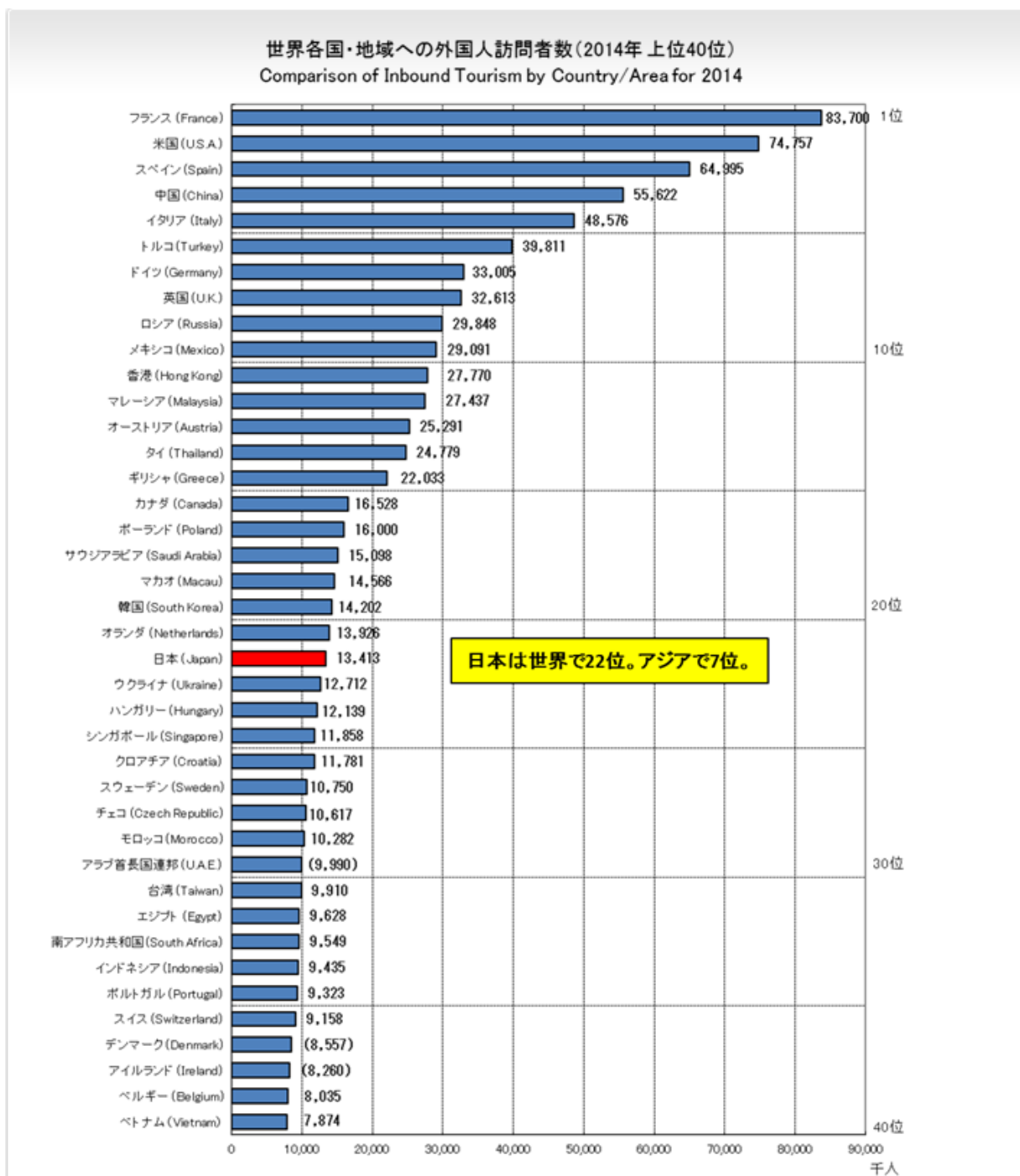
[http://www.who.int/kobe\\_centre/mediacentre/whs\\_2014/ja/](http://www.who.int/kobe_centre/mediacentre/whs_2014/ja/)

(\*)日本人のように集団で観光をすることをしないため。

<グラフ 4-3>

出典：世界観光機関（UNWTO）、各国政府観光局

作成：日本政府観光局（JNTO）



<表 4 - 1>

出典：日本政府観光局（JNTO）

## 平成27年 訪日外客数・出国日本人数 2015 Visitor Arrivals & Japanese Overseas Travelers

日本政府観光局(JNTO)  
Japan National Tourism Organization(JNTO)

平成27年11月18日  
18/Nov./2015

(単位：人 / Unit: Persons)

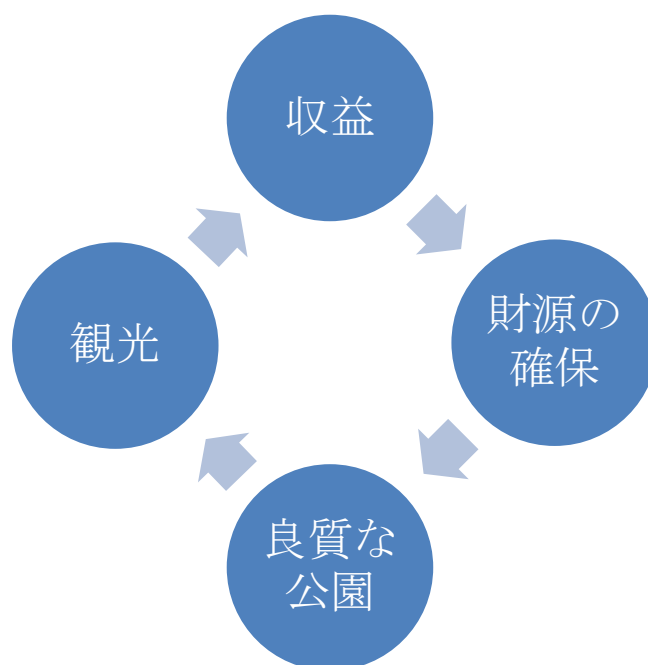
月 Month	訪日外客数 Visitor Arrivals			出国日本人数 Japanese Overseas Travelers		
	平成26年 2014	平成27年 2015	伸率 Change %	平成26年 2014	平成27年 2015	伸率 Change %
1 Jan.	944,009 (730,519)	1,218,393 (978,476)	29.1 (33.9)	1,253,404	1,235,612	-1.4
2 Feb.	880,020 (688,902)	1,386,982 (1,207,242)	57.6 (75.2)	1,404,873	1,257,154	-10.5
3 Mar.	1,050,559 (802,434)	1,525,879 (1,236,489)	45.2 (54.1)	1,596,751	1,534,026	-3.9
4 Apr.	1,231,471 (1,020,474)	1,764,691 (1,528,848)	43.3 (49.8)	1,189,132	1,144,833	-3.7
5 May	1,097,211 (892,577)	1,641,734 (1,411,626)	49.6 (58.2)	1,280,765	1,262,103	-1.5
6 Jun.	1,055,273 (866,883)	1,602,198 (1,398,845)	51.8 (61.4)	1,289,029	1,190,806	-7.6
7 Jul.	1,270,048 (1,080,552)	1,918,356 (1,712,803)	51.0 (58.5)	1,414,912	1,309,957	-7.4
8 Aug.	1,109,569 (903,919)	1,817,023 (1,584,484)	63.8 (75.3)	1,783,127	1,653,622	-7.3
9 Sep.	1,099,102 (846,241)	*1,612,300	*46.7	1,520,863	*1,525,780	*0.3
10 Oct.	1,271,705 (1,029,922)	*1,829,300	*43.8	1,417,766	*1,406,000	*-0.8
11 Nov.	1,168,427 (943,831)			1,355,246		
12 Dec.	1,236,073 (1,074,350)			1,397,520		
1~10 Jan.-Oct.	11,008,967 (8,862,423)	*16,316,900	*48.2	14,150,622	*13,519,900	*-4.5
1~12 Jan.-Dec.	13,413,467 (10,880,604)			16,903,388		

のこと、街全体を視野に入れた総合的な都市を目標に公園を整備することだと考える。どういうことか。それは、公園自体を観光の目的とするのではなく、観光の一つの要素としての公園を目指すということである。なぜかと言うと、2つの理由がある。一つ目は、前述したような日比谷公園の大地性、場所性、自然性、時代性、そして百十余年の歴史性と公園生活性が掛け合わさった「日比谷公園力」と「公園文化力」の高さは、決して公園そのものが自ら生産してきたものではないからである。日比谷公園を例にとるならば、それは隣接する宮城であったり、官庁街によって独自の政治的な性格が醸成されてきた。また、目の前に帝国ホテルがあるのも、訪れる人がいる大きな理由だろう。つまり、街全体として総合的に人を呼び込み、そこに公園があって人が訪れるという理想形が日比谷公園では出来上がっているのではないだろうか（日比谷公園が現段階で観光ビジネスを成功させているかどうかについては後述する。理想形としてのポテンシャルがあるということ）。二つ



目の理由は、都市の乱開発を防止し、街全体としての総合的な魅力を高めることが出来るからである。つまり、街が公園空間の価値を高め、公園空間が街を潤すという相乗効果が生まれるのである。

<図 4-1>

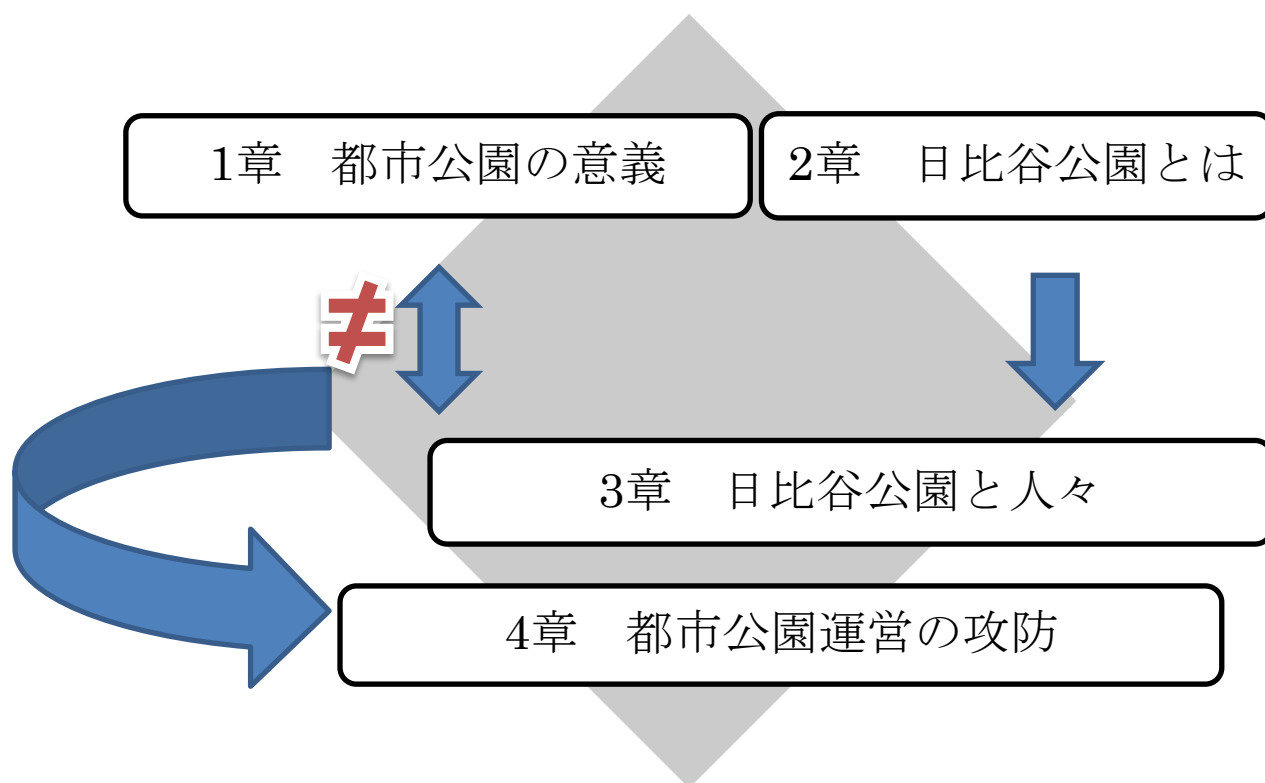


これまで提言をしてきたが、公園空間を一つの観光スポットとして確立させ、「観光」→「収益」→「財源の確保」→「質の高い（訪れたいと思う）公園の演出」というサイクルを回すためには、エリア全体を視野に入れた街の中の公園空間の存在がそのための条件であるとも言え換えることが出来るだろう。日比谷公園の場合、現在ではそのポテンシャルを最大限発揮出来ているかと聞かれれば、答えは「いいえ。」だろう。しかし、日比谷公園が存在する日比谷地区、もっと言うならば日比谷公園が存在する有楽町や丸の内地区と考えるならば、それらのエリアから訪れる人々は少なくないはずである。それはつまり、観光資源としての公園空間が成立していると言えるし、街が公園空間の価値を高め、公園空間が街を潤すという相乗効果が生まれていると言えるのではないだろうか。また、現時点での結果として日比谷公園において「観光」→「収益」→「財源の確保」→「質の高い（訪れたいと思う）公園の演出」のサイクルを回せるだけの機能は生み出せてはいないと思うが、提言の条件としてはこの上ない環境にあると考えられるし、これまで西洋文化を新しく普及させてきた言わば都市公園のパイオニアとして、公園観光ビジネスを成功させていくべきであるし、同時にそれは今後の大きな課題だとも思うのである。

## 終章 論文のまとめ

### 5-1 結論、本論の意義

いよいよ本論文も終章を迎えた。この章では本論文の意義について、下図を参照しながら述べていきたいと思う。



各章ごとの簡単な位置づけについて説明し、全体のフローチャートについても解説していきたい。

#### 1章 都市公園の意義

この章では、本論文で扱う都市公園についての定義づけや、その役割、歴史について言及した。都市公園には様々な機能があり、特に災害やヒートアイランド現象に悩ませられる日本においては貴重な役割を果たしていることがわかった。

#### 2章 日比谷公園とは

この章では、日比谷公園を歴史的、また空間的に分析した。これまで政治的な性格の強い出来事が多く行われ、政治のシンボルとしての日比谷公園が醸成されていったのだった。また、設計者が想定した意図とちがう利用がみられ、公園空間の使われ方は多様性を示し、それはまた同時にそのような社会的政治的意義が公園にあることを確認した。

#### 3章 日比谷公園と人々

この章では、日比谷焼き打ち事件を主な事例として、日比谷公園という居場所がいかんとして生まれたのか考察した。日比谷公園は一般に言われる都市公園のように、「大名庭園」や「社寺境内地」の緑から由来するところではなく、その後明治時代以降は練兵場や公園開園後には国家広場的な空間として政治的な性格を含む特別な都市公園として歴史を歩み、今なおデモの集合場所となっていることを象徴として政治のシンボリックな空間となっているのだった。

#### 4章 都市公園運営の攻防

この章では、まず都市公園の取り巻く現状（公園開園数や財政状況）が楽観視出来ないものであり、海外の一人当たりの公園面積と比較すると大きく引き離されていることを分析した。そのうえで、公園空間を一つの観光スポットとして確立させ、「観光」→「収益」→「財源の確保」→「質の高い（訪れたいと思う）公園の演出」というサイクルを回すことが、解決策となりえるのではなかという提言を行った。

以上が各章ごとの簡単な説明であるが、全体のフローチャートを参照して欲しい。まず、2章から3章の➡についてだが、ここでは2章で言及した日比谷公園の政治的な性格についての詳細な歴史やその変遷について3章で述べていった。そして1章と3章の≠についてだが、1章の都市公園の定義の中でも、過去の成り立ちから日比谷公園が特別な存在であることが際立っていることを示している。それがゆえに日比谷公園は、設計者の予想を超える都市装置である都市公園の、まさに先駆けとして存在してきていることがわかる。そのため4章では、日比谷公園のような街の中のエリアマネジメントとして存在している都市公園は、公園空間を一つの観光スポットとして確立させ、「観光」→「収益」→「財源の確保」→「質の高い（訪れたいと思う）公園の演出」というサイクルを回すことが、現在抱える都市公園の課題解決の提言として述べられている。

全体として本論文は、乱立する高層ビル群の中で、変わらずに受け継がれてきた緑の存在に少しでも関心を抱き、そしてその歴史的な変遷や空間的な価値について読者自身が考えを及ぼしたくなるような構成になっている。また、都市公園運営への提言を行うことで、今後の都市公園の可能性に言及し、その無限に広がる公園空間の価値へと思いを巡らせて欲しいと思うのである。

#### 5-2 謝辞

大学時代に一番熱心に取り組んだ学術的事例を思い返すとすれば、筆者にとってそれは間違いなく浦野ゼミでの活動である。そこで筆者にとって思い出深い3年時の活動について少し振り返りたい。1年間かけて渋谷の調査を行う際、はじめのうちは資料やデータの収集に追われるあまり、現地のリアルな情報を収集するということを忘れていたことがあった。そんな時、フィールドワークやヒアリングを通じた、現地赶赴はじめて知る

ことのできる生の情報の重要性を学んだ覚えがある。何が言いたいのかというと、ある事象・物事には必ずあらゆる側面があり、単一的な視点に留まることなく広い視座に立ち考えることが重要であるということだ。私にとってこの学びは、今後社会人として生きていくうえでも大切にしていかなければいけない人生の礎の一つになったように思う。最後に、本論文の主査であり、3年時より浦野ゼミにて大変お世話になった浦野教授に深く感謝の意を表し、本論文の結びとする。ありがとうございました。

### 5-3 参考文献リスト

※インターネットは全て（朝日新聞デジタル除く）2016年1月14日最終閲覧

---

2015年04月14日 朝日新聞夕刊

オリンピック TOKYO 1964 著者：東龍太郎 わせた書房 1962年初版第1刷

原宿表参道 2013 水と緑が協生するまちづくり 初版 2013年12月20日 著者：商店街振興組合原宿表参道櫛会

日比谷公園一〇〇年の矜持に学ぶ 進士五十八著 2011年5月20日 鹿島出版社

世界大百科事典 第2版

緑ゆたかな東京・公園ものがたり 平成27年9月9日発行 公園文化財歴史と管理の研究者 高橋裕一氏著

日比谷公園 十の不思議 元日比谷公園管理所長 高橋裕一氏 平成27（2015）年6月7日（日）

日比谷公園 とっておきの話 元日比谷公園管理所長 高橋裕一氏 平成27（2015）年1月14日（土）

群衆の居場所 都市騒乱の歴史社会学 中筋直哉著 2005年2月25日初版 新曜社発行

日比谷騒擾事件の顛末 松井茂手記 昭和27年9月5日印刷 杉田屋印刷株式会社

朝日新聞デジタル 自ら火、訴えたかったのは 日比谷の男性焼身自殺1カ月

<http://www.asahi.com/articles/ASGDB4S2SGDBUTIL01Q.html>

（清水大輔、甲斐弘史 2014年12月11日10時08分）※最終閲覧 2015年12月1日

日本経済新聞 電子版 2013/9/20

[http://www.nikkei.com/news/print-article/?R\\_FLG=0&bf=0&ng=DGXNASFK18039\\_Z10C13A9000000&uah=DF120120126021](http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXNASFK18039_Z10C13A9000000&uah=DF120120126021)

毎日新聞 2015 年 10 月 03 日

<http://mainichi.jp/shimen/news/20151003ddm012040032000c.html>

国土交通省 HP

<http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/houritsu/kouen/index.html>

[http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p\\_toshi/syurui/index.html](http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p_toshi/syurui/index.html)

[http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p\\_toshi/yakuwari/index.html](http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p_toshi/yakuwari/index.html)

<http://www.koen.pref.ibaraki.jp/pdf/04.pdf>

東京都公園協会 HP

<http://teien.tokyo-park.or.jp/contents/outline031.html> (六義園)

<http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/map037.html> (日比谷公園園内マップ)

環境省 HP

[http://www.env.go.jp/park/index.html#area\\_kanto](http://www.env.go.jp/park/index.html#area_kanto)

千代田区観光協会 HP

<http://www.kanko-chiyoda.jp/tabid/111/Default.aspx>

<http://www.kanko-chiyoda.jp/tabid/309/Default.aspx>

WHO HP

[http://www.who.int/kobe\\_centre/mediacentre/whs\\_2014/ja/](http://www.who.int/kobe_centre/mediacentre/whs_2014/ja/)

TokyoRent.jp HP

<http://tokyorent.jp/column/57/>

公共財団法人東京都公園協会広報誌「緑と水のひろば」素晴らしき日比谷公園

2012 年 69 号

<https://www.tokyo-park.or.jp/parkfriend/download/pdf/hiroba069.pdf#search=%27%E9%80%B2%E5%A3%AB%E4%BA%94+%E5%8D%81%E5%85%AB+%EF%BC%8C%E6%97%A5%E6%AF%94%E8%B0%B7%E5%85%AC+%E5%9C%92%E5%8F%B2%E5%B9%B4%E8%A1%B0%EF%BC%8C%E9%83%BD+%E5%B8%82%E5%85%AC+%E5%9C%92%27>

東京都市整備局

[http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/kouen\\_ryokuti/kr\\_pdf/kr\\_guide01.pdf#searc](http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/kouen_ryokuti/kr_pdf/kr_guide01.pdf#searc)

h=%27%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%81%AE%E7%B7%91%E5%9C%B0%E9%9D%A2%E7%A9%8D%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27

[http://www.kansa.metro.tokyo.jp/PDF/15houkatsu/14/14\\_2kouen.pdf#search=%27%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%85%AC%E5%9C%92%E6%95%B4%E5%82%99%E8%B2%BB%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27](http://www.kansa.metro.tokyo.jp/PDF/15houkatsu/14/14_2kouen.pdf#search=%27%E9%83%BD%E5%B8%82%E5%85%AC%E5%9C%92%E6%95%B4%E5%82%99%E8%B2%BB%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB%27)